国際交流

記録文集

International Exchange Record

2023

国際交流

目次

『国際交流記録文集』第15号　発刊に寄せて　奈良学園大学　社会・国際連携センター長　善野　八千子

『国際交流における充実した学びの姿』　学長の挨拶　奈良学園大学　学長　金山　憲正 …… 1

カンボジア短期研修

『カンボジア短期研修から得たもの』　人間教育学部　准教授　松岡　克典 …… 2

「カンボジア短期研修を終えて」　保健医療学部　森本　陽菜 …… 3

「活きる」　保健医療学部　湯浅　菜々 …… 4

「研修を通しての気づきと今後への活用」　保健医療学部　森本　芽映 …… 5

「カンボジアでの異文化交流の経験の日常生活における活かし方について」　人間教育学部　井阪　裕哉 …… 6

夏期日本語研修プログラム

「奈良学園大学夏期研修」　蘇州科技大学 …… 7
卞 陽陽、周 君逸、蔣 靜旖、高 張琳、周 欣、毛 茗、潘 珊、沙 穎、王 依喆、馬 源

「豊かな研修」　青島城市学院　郭　岩志 …… 12

「夏期日本語研修プログラムについて」　青島城市学院　許　雅馨 …… 12

「君と過ごした日々を」　台湾国立屏東科技大学　謝孟言 …… 13

「夏期日本語研修レポート」　台湾国立屏東科技大学　張　鉦勳・李　千玉・陳　又心 …… 14

東アジア文化交流研修（in沖縄）

蘇州科技大学　王雅蕭、黒龍江東方学院　康窈嘉・姜鑫爍・孫家苹 …… 16

特別聴講生プログラム【課題研究発表PPT】

「中国語を母語とする日本語学習者の日中同形異義語学習の現状及び学習法の提案」
―二言語習得のストラテジーの一つとして―　PPT　蘇州科技大学　周明涵 …… 18

「夏目漱石『夢十夜』における生き方の探究」　PPT　蘇州科技大学　高晗 …… 20

「日本における“無縁社会”と社会福祉制度の問題」
―映画『万引き家族』を手がかりに―　PPT　蘇州科技大学　王淞灝 …… 22

「中国と日本の教育における相違点に関する一考察」
―自らの体験から学んだことをふまえて―　PPT　蘇州科技大学　王雅蕭 …… 24

「現代の日本社会における父親像に関する一考察」
―是枝裕和氏の映画作品の分析を通して―　PPT　蘇州科技大学　李金芷 …… 26

「中日小学校教育および学校生活についての比較」 PPT 黒龍江東方学院　姜鑫爍 ……28

「川上弘美における物の哀れ」 PPT 黒龍江東方学院　康窈嘉 ……30

「中日の食文化の違いを分析する」―中日の鍋料理の比較を元に― PPT 黒龍江東方学院　孫家苹 ……31

奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流

令和5年度　奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会（オンライン） ……32

『第３回奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会（オンライン）を開催して』 人間教育学部　准教授　山田　明広 ……33

「江戸前ずしはどのように誕生したのか」 PPT 奈良学園大学　人間教育学部　浅倉聖斗、平松義士 ……34

「浮世絵の世界旅行」 PPT 奈良学園大学　人間教育学部　白木　郁、寺口 翔馬 ……36

セブ島語学研修

セブ島語学研修 振り返り　人間教育学部　小林　姫弓 ……37

セブ島語学研修 振り返り　人間教育学部　渡辺 明日香 ……38

編集後記　保健医療学部　講師　笹野 弘美 …… 39

「国際交流記録文集」第15号　発刊に寄せて

この度、「国際交流記録文集」は第15号を迎え、奈良学園大学が登美ヶ丘キャンパスにワンキャンパスとなって、早2年目の発刊を迎えます。

今年度の「国際交流記録文集」第15号では、主に以下の点に注目頂けたらと存じます。

1点目は、2023年度の社会・国際連携センターの特色あるプログラムです。

まず、特別聴講生（留学生）の受入がようやく再開し、4年ぶりに海外連携協定大学から11名の学生を初めて登美ヶ丘キャンパスで迎えました。本誌では、人間教育学部の先生方の知見に基づいた丁寧な個別指導による「課題研究発表成果」を紹介しています。

その直後に開催された修了式「謝辞」を抜粋して、原文のままここにご紹介致します。

> 「私たちがこの学校で過ごした時間はどのように総括できるのだろうといつも考えていますが、やはり日本語の上達もさることながら、もっと重要な意義があると思います。高校生の頃、いろいろな大学生活を想像していましたが、新型コロナのせいで、実際には4年間の大学の半分がオンライン授業でした。奈良学園大学に来て、一年生として新しい大学生活をもう一度経験したので、本格的な大学生活のスタートとも言えますが、初めて自分の専攻が役に立ったと感じ、授業の多様性と実用性を感じました。また、私の知る限りでは、続けて日本の大学院進学や就職を希望している留学生もいます。」

上記の「修了式謝辞」は、見事な日本語で大変心に深く響くものでした。

次に、好評を得ている「夏期日本語研修プログラム」の充実です。ここでも4年ぶりに海外連携協定大学から18名の学生（中国、台湾、カンボジア）を迎え、日本の文化・奈良の文化に浸る体験のみならず、県内で宿泊して本学学生と共に「ボランティア活動」を実施したのも発展的なプログラムとなりました。

2点目には、新たな展開となった「カンボジア短期研修」です。両学部の学生参加による現地研修は、周到な事前準備や日々の連絡調整などによって実現に至りました。参加者が現地交流や直接体験から得られた価値と新たな発見等を記憶と共に記録に残せる本誌を大切にしたいと思います。

3点目には、蘇州科技大学（中国）とのオンライン交流の継続ができたことです。海外連携協定校のうち、古くからつながりのある蘇州科技大学はオンライン交流の3年目です。今年度は、蘇州科技大学副学長ご一行様は本学への表敬訪問もされました。テーマ「互いの文化や習慣を理解し、違いを認め合おう！」に取り組み、また一歩国際交流が進められたようでした。

また、人間教育学部においては「セブ島語学研修」として、引き続いて現地研修があり、参加学生の大きな成長が見られました。継続してその成果を寄稿して頂く事ができたことに感謝致します。誠にありがとうございました。

今後も学生の健康安全と育成を第一にし、同一性（Identity）、多様性（Diversity）、共通性（Commonality）を深めつつ、世界の動きを本学の取組に反映させてまいります。

最後になりましたが、本年度の社会・国際連携センターの活動に御協力頂きました皆様、また継続して、各学生の指導に温かい配慮と支援に誠心誠意あたられた本センター運営委員並びに職員各位に深く感謝致します。

奈良学園大学　社会・国際連携センター長
人間教育学部　特任教授　善野 八千子

国際交流における充実した学びの姿

奈良学園大学　学長　金山　憲正

本年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が昨年の5月に季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことで、本学が長年続けています国際交流関連の事業を新型コロナ感染症拡大前に近い状態で実施することができました。

昨年度はある程度の制限を受けながらも、2年ぶりにカンボジア短期研修でカンボジアへ、セブ島語学研修でフィリピンへ、国際看護演習ではタイへと、本学の学生が渡航し現地との交流を深めることができました。一方、諸外国の感染対策の違いにより、海外学生の受け入れにつきましては実現させるまでにはいたりませんでした。

しかし、本年度は奈良学園大学が企画いたしました7月から8月にかけての3週間の「夏期日本語研修」、1年間または半年間にわたる「特別聴講生」の各プログラムに対しまして海外の複数大学から、予想していた人数を上回る学生さんに参加して頂くことができました。「夏期日本語研修」プログラムには蘇州科技大学10名、青島城市学院2名、国立屏東科技大学4名、メコン大学2名と4大学から計18名の参加がありました。また、「特別聴講生」プログラムには蘇州科技大学5名、黒竜江東方学院3名、三峡大学3名と3大学から計11名の参加がありました。今回の両プログラム参加者に共通して言えることは、まず学修面においてはこの機会を生かして自分の知識を豊かにしようと、「学び」に積極的にそして真摯に向き合う姿が参加期間を通して見られたということです。次に生活面に関しましては、大変礼儀正しく節度をわきまえた行動ができていたことです。また、異なる大学から来ているにもかかわらず、参加者同士の仲が良く横の連携をしっかり取ることもできていました。大変素晴らしい学生さん達だなと感心した次第です。

そのような取り組みを通して研鑽を積んだ成果がこの記録文集に体験談や研究成果報告として掲載されています。参加期間が最も長い学生さんでも11ヶ月という短期間に、よくここまで充実した取り組みができたものだと感心させられる素晴らしい報告となっています。是非お目通し頂ければ幸いです。

私はカンボジアやフィリピンなどへの海外研修に引率した経験はないので自分の目で確かめることはできていないのですが、きっと本学から海外研修に参加している学生さんもそれぞれの研修先で同じように素晴らしい評価を受けている事だと確信しているところです。今後、機会がありましたら一人でも多くの学生さんが国際交流に参加し、海外の文化に自分自身の五感で直接触れて国際感覚を養い、今後の人生に生かして頂ければと思っています。

最後になりましたが、本学での研修プログラムの実施並びに本学からの海外研修に際しまして研究指導や宿泊の引率など本事業の推進に多方面にわたりご協力頂きました教職員の皆様方に心から感謝すると共に厚くお礼申し上げます。

カンボジア短期研修から得たもの

人間教育学部　准教授　松岡　克典

目的

今回は、本学学生の人間力育成とグローバルマインドの醸成を目的とした研修であった。目的を達成するために、①日カンボジア絆フェスティバル2024（主催・在カンボジア日本大使館等）に参加すること、②メコン大学の学生と英語交流すること、③教育機関・医療機関を訪問・視察することをプログラムに沿って実施した。今回の参加は、人間教育学部1名、保健医療学部3名の計4名であった。

KIZUNA　FESTIVALの参加

KIZUNA　FESTIVAL（絆フェスティバル）に参加するにあたって、大使館及びCJCC（カンボジア日本人材開発センター）関係者に混じり、オープニングセレモニーに参列することができ貴重な体験となった。フェスティバルの催し物として当初、たこ焼きを調理し販売することを申請していたが認められず、日本の伝統文化を紹介することに決まった。既にたこ焼きの練習を家庭で行っていた学生もいたが、気を取り直して「日本の遊び」を紹介することになった。けん玉、こま回し、輪投げを行い、景品として日本の駄菓子をプレゼントした。開始後1時間半あまりで景品が無くなるほどの反響ぶりであった。学生たちはゼスチャーを交えながら英語で遊び方の説明や景品の受け渡しを行い、カンボジアに住む人々と交流を深めることできた。

メコン大学の学生との交流

昨年度も参加してくれたメコン大学の学生や新たに加わった学生と交流会を行った。それぞれがパワーポイントを使って英語で自己紹介を行い、質疑応答することで会話が弾んだ。アイスブレイクとしてゲームを英語で説明し、実践しようと各々考えてきたのだが、ほとんど披露すること無く打ち解けることができた。出会って5日目にはメコン大学の学生と一緒に出かけ、王宮や博物館を見学したり買い物に行ったりするほど仲良くなった。メコン大学の学生はとても親切で、彼らとの出会いやコミュニケーションを通じて、カンボジアの人々の温かさと親日的な態度を感じ、日本との友好関係に触れることができた。

教育機関・医療機関の見学

プノンペン及び近郊の学校や医療施設を訪問・見学した。カンボジアの義務教育は日本と同じ9年間だが、実際に学校を卒業した人の割合を示す修了率は、初等教育（小学校レベル）が87.4%、前期中等教育（中学校レベル）48.1%と低く、多くの子どもが義務教育を終えていないという。（https://corp-japanjobschool.com/divership/cambodia）しかし、実際は表向きの数字であってそれよりも低いことは暗黙の了解である。驚いたのは、小学生なのにバイクに乗って登校していたことだ。125cc以上のバイクは免許が必要だが、それ未満であると免許が無くても乗れるのである。プノンペンの公立小学校は就学人数の増加により3部制（プノンペン以外は2部制）になっていて、午前7時から開始し、1クラス50～60人だという。訪問した私立のBamboo Shoot Schoolは2部制で午前と午後に分かれていた。この小学校は年齢ではなく、2ケ月に1回行われる定期テストによる成績で進級が決まるため、16歳の小学生も在籍している。訪問した日はテスト日で、模写や暗唱、色塗りといった、日本のペーパーテストとは違った方法で評価していることに驚いた。

カンボジアの印象

参加した学生は全員、初めてのカンボジアに好印象を抱き、満喫して帰国した。「個人でも行きたい」「また参加したい」という声も挙がり、それぞれが充実した研修であり、得たものはこの文集に載せている。私が興味をもったのは、数のしくみである。午前6時からレストランが開くと案内に載っていたので行くと誰もいない。奥に人影が見えたので呼んだが、英語が通じない。ゼスチャーで未だ始まっていないということは理解できたが、何時から始まるのか紙に書いてもらうと、「6、5」と記した。時計を指さし、「今、ちょうど6時5分だけど？」と言ったが、違うという。「6：05 or 6：50」と書くと、どちらも違うという。正解は「6：30」なのだ。「、5」は小数を表し、0.5時間という意味だったのだ。さらに、「6」は「5＋1」という表し方をしたり、算用数字（アラビア数字）よりもクメール語の数字で表示されたりすることが多いことが分かった。クメール語の「1」は「១」、「3」は「៣」、「4」は「៤」と表記されているのはインド起源であるアラビア数字の影響を受けているものだと推測する。今回、算数の授業は視察できなかったが、機会があればぜひ参観したいと強く思った。

カンボジア短期研修を終えて

保健医療学部　2331139　森本　陽菜

〈中央に樋口先生、左側に CMU の学生〉

人間力育成とグローバルマインドの醸成を目的として2024年2月20日から26日までの1週間、カンボジア短期研修が行われた。現地のカンボジアメコン大学（CMU）の学生とともに日本語や英語を通したコミュニケーションを行い、現地の食文化や生活様式、価値観の違いを肌で実感することができた。また、プノンペン市内の診療所や医療機関、さらには地方の診療所へ訪問し、日本の医療との差異やカンボジア内の医療能力の違いを学ぶことができた。今回、私はカンボジア研修を通して学んだこと、さらにその学びを今後どのように活かすか、事後レポートとして述べる。

私がカンボジア研修を通して学んだことは3つある。

1つ目は価値観の違いである。

日本では当たり前であることは外国では当たり前でないと、自身で海外に出向くことによって実感することができた。例えば、信号である。日本では信号機は自動車や歩行者の安全を守るため、乗車側も歩行者側も常に守らなければならない。しかし、カンボジアでは信号があるにもかかわらず、たくさんの信号無視を行うバイク乗用車がみられた。さらに、そのような信号機が機能していない道路に対して、歩行者は注意を払いながらも道路を横断しなければならない。これは日本人にとってとても危険行為であると考える一方で、現地のカンボジアの人々にとっては普通のことである。他の例としてコオロギを食べる習慣である。私は現地の大学生と昼食を食べた際、食べ物としてのコオロギを初めて目にした。日本では普段の食事でコオロギを食する文化はあまり見られないが、カンボジア内ではコオロギは高級料理として現地の人々に愛されていた。このように住む環境によって物事の考え方、価値観が全く違うと実感した。

2つ目は、医療機関に対しての考え方の違いである。

私が滞在したプノンペン市内では数多くのクリニックや診療所、薬局がみられた。私は病院訪問の際、とても驚いたことがある。それは現地の人々が身体に異常を感じた際、病院に受診するのではなく、直接薬局に行くということである。日本では法律により、医師による処方箋によって処方することができる薬や処方箋がなくても薬剤師の対面による情報提供、指導が義務づけられている薬などがある。そのため、日本の人々は最初に病院や診療所に受診する。しかし、メコン大学樋口先生の話によると人々は医師による診断の前に直接薬局にいき、薬剤師による簡単な問診によって効き目の強い抗生物質なども購入することができるという。そのため、薬剤師の知識不足や説明不足により、不適切に薬が提供される場合があるという。この事実を知り、日本人とカンボジア人とでは医療機関に対する人々の考え方の違いに衝撃を受けた。

3つ目は都市部と地方部の医療設備の違いである。

〈地方診療所の分娩室〉

私はカンボジアの首都であるプノンペンの病院や診療所に加え、地方にある診療所に訪問した。プノンペンでは産婦人科の診療所とその他の治療を行う診療所は区別されていた。しかし、地方の診療所には簡単な傷の手当を行う診察室と分娩室の両方が設置されていた。また、地方の診療所では血圧計や聴診器、体温計ほどしか医療器具がなく、医療設備が整っておらず、日本のように医療機械による正確な診断をすることが難しい環境であると感じ、衝撃を感じた。さらに、私が気になったことは衛生面である。プノンペン市内の診療所では薬が床におかれていた。日本では病院の床は不潔なため下のほうに置かないようにと先生に教わった。しかし、カンボジアの光景を見て、日本ほど衛生面を考慮していない場合もあるのだと感じた。

このように、今回のカンボジア研修では日本と全く違う文化や生活環境など、様々なことに対して刺激を受けた1週間であった。この経験は今後の私自身の看護師像に大きく影響を与え、より良い看護に活かすことができると考える。私は今後の日本の医療は人種や言語、文化という隔たりを超え、すべての人が平等に、安心して医療を受けることができる環境が求められていくと考える。このような医療を実現するためには、言語を通したコミュニケーションだけでなく、カンボジア研修のように他国についての文化や価値観を自らが知り、他国についての理解を深め、多国籍の患者さんの価値観を受け入れることが大切である。特に患者さんと接する機会が多い看護師にとって、他国について知ることは多角的視野を培うことにつながる。看護師は常に患者さんについて考え、援助していく職業である。多国籍な患者さんに対して看護師が援助を行う際、上記のように多角的視野を持つことによって、患者さんがより平等に、安心した医療を受けることにつながると考える。

活きる

保健医療学部　2331142　湯浅　菜々

今回私にとって初めての海外経験となったカンボジア短期研修について報告する。

初めて海外に行くという事で楽しみな反面、心配の方が強かった。両親からも「夜は出歩くな、カバンもしっかり持て」と何度も言われ、実際にカンボジアの治安や、衛生面を調べてみるとやはり良くないと書いている事が多かった。そのため，私のカンボジアのイメージは良くなく、日本と大きな差を感じるような治安状況をネットで見て、そんな治安なら人もきっと怖いのだろうと強い警戒心をもって自分から行かせて欲しいと親に頼んだにも関わらず少し後悔している部分があった。

初日、空港に着くとまず空気の悪さに圧倒された。そこでは、警戒心マックスだった私はトゥクトゥクに初めて乗る時もちゃんと目的地に着くのだろうか、いや、つかない可能性の方が高いのではないかと思っていた程だった。さらに、ホテルでの荷物もいつも日本での旅行ではある程度まとめていたらそのまま外出する事が多かったが、しっかりスーツケースにしまい、鍵を閉めて外出した。

初めてメコン大学の学生や、卒業生に会い、自己紹介をした時、言葉の壁を感じてさらに自分の中で距離が生まれた。その日の食事会も寝不足なことから、日本に帰りたくて仕方なかった。ホテル帰宅後も衛生面のことを考えると風呂に入る時の裸足に抵抗感があり、入るのに時間がかかった。

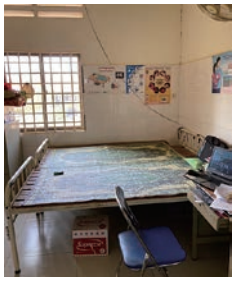
2日目、その日は町の診療所とカンボジアの大きな病院に行く日で、カンボジアの町を自分たちの足で歩く初めての日だった。やはり道は良くなかった。

しかし、診療所の先生達の出会いから私のカンボジアに対するイメージは大きく変わってきた。初日のファーストミートでも学生達とは接したが、近い距離感で話したのは病院の先生達が初めてで、その時の印象はとてもサービス精神が旺盛だと感じた。

日本では医療機関に入ることはとても難しいし、入れたとしてもやっぱり学生と社会人という目線で接される。しかし、先生達にはそれは感じず、「入院室、手術室も勝手にみていいよ。」ととてもフランクな感じで初めは驚きとそれで大丈夫なのかと思う事があった。そして、女性の患者さんが点滴を受けていて私たちが入る事で嫌な思いをするのではないかと思ったら、別に気にする事なく珍しいそうにただ見ていただけだった。日本だったら間違いなく急に私たちのような人が来たら不快に思って、病院側にクレームなり、その場で私たちが怒られていただろうに。

そこから私はとてももったいないことをしていることに気がついた。それは海外という偏見からカンボジアを見ていた事だった。それに気づいてから私は色眼鏡で見ようとせず、カンボジアで自分が感じた事を素直に感じ取ろうとするようになった。するとカンボジアの人達はとても素直でサービス精神旺盛だと感じるようになった。メコン大学の学生達も私達が英語で合わせるべきなのに、日本語やジェスチャーで必死に伝えようとしてくれた。特にわからないことは、はっきりわからないと言ってくれてお互いが通じるまで話し、通じ合った時はみんなで喜んだ。

日本に住んでいたらわからないということはよくないこととされ、わからないまま理解したふりをすることが多い。そして食べ物も何を食べたらいいかわからない私たちに食べやすい物をとってお皿に入れてくれたり、箸が止まっていると「もっと食べる？」と、すかさず聞いてくれたりした。そんな風に自然体でカンボジアを見る様になってからはとても楽しく、人の優しさを多く感じたと同時に環境に感謝することもできた。


〈地方診療所の入院室〉

しかし、そんな素敵なカンボジアでもやはり衛生面が気になった。診療所や地方の病院も見学させてもらったが、日本ではあり得ない衛生管理だった。特に入院室には少し驚いた。これが実際、私が見た入院室だ。

日本の様に仕切りなどはなく、ベッド数が明らかに少ない。見渡す限り医療器具は揃っている様に見えなかった。

私はカンボジアの人達のとても親切な人柄を感じた後だったので少し悲しくなった。その理由は、日本だったら救える命はカンボジアでは救えないことが多いのではないかと思ったからだ。実際に話を聞いた感じでは日本より妊婦さんが亡くなる可能性が高いことや、結核が多いことからもそう捉えられる。

私はその時、カンボジアだけの問題ではなく、その様な環境の国、そして医療が進んでいる国全世界で解決するべき問題だと強く感じた。最近のテレビでは他の国を見て日本の方が優れている。他国に比べここが劣っているからそれを越す様な政策をするなど競っているような事が多く耳に入る。そうではなく日本が誇るべきところ、例えば衛生面、トイレはこういったカンボジアの様な国に提供し、もっと国同士が近距離で接し合う事で私が感動したカンボジアの人達の魅力もどんどん伝わり、カンボジアの課題とも感じた医療面、衛生面も改善されるのではないかと感じた。

初めの私はカンボジアに対し衛生面や、治安のことから現地の人達を偏見で見ていた。そのことから医療機関に対しても大体の想像をして、そんな国もあるよな。とその先を何も考えず日本と比べるようなことばかり正直していた面があった。しかし、本当にカンボジアの人たちの優しさ、そして日本が好きという気持ち、フリータイムでは、ほぼ日本語でカンボジアの歴史についても教えてくれ、愛国心も強く感じたことから本当に場所によって救える命、救えない命がある事がとても悔しくなった。

この様な日本には無い魅力が沢山あり、自分が普段いかにフィルターをかけて物事を見ていた事、私は自己紹介の時に「ヤンキー」を紹介して、見かけによらずいい人だと発表したことが伏線回収の様になった研修だった。自分を守るために、どうしても偏見や色眼鏡で見てしまうことがどれだけ損しているか痛感でき、その偏見で見ずに得た景色を忘れずにこれからの自分の人生の軸にして、活かして行こうと思った人生観が変わる様な大切なきっかけとなり、日本に正直帰ることに気が引ける本当に良い海外研修だった。

最後に、研修に着いてきてくれた先生方、本当にありがとうございました。ホテルや外出先で、私達が安全に過ごす基盤を作ってくださったおかげでとても楽しい大きな経験値を得た研修になりました。これからまた機会があれば参加させてもらいたいです。

〈お別れ会の様子〉

研修を通しての気づきと今後への活用

保健医療学部　2331239　森本　芽映

私は、カンボジア短期研修を通じて大きく3つの気づきがありました。

1つ目は、コミュニケーションについてです。コミュニケーション＝人と話すこと、と思われがちですが、異国で誰かと話す際にそれが全くの間違いであることに気づきました。コミュニケーションとは、相手の伝えたいことを理解し、自分の伝えたいことを理解してもらう、この双方がクリアされた時に成立するのです。

研修前には、言語が違うことに対して少し抵抗感があり、上手く伝わるのかという心配もありました。ですが、現地の方は私の目をしっかりと見て、最後まで話を聞いてくれたのでとても安心しました。メコン大学の方とお話する際には日本語や英語で話し、言語の違い等関係なく、何よりも大切なものがありました。それは、伝えようとすること、理解しようとする心でした。どうしても伝わらないこと、理解できないことも多々ありましたがジェスチャーを使ったり、完璧な英語でなくても単語を並べてみたりするだけで伝わることがありました。

また、お互いに翻訳機能を利用することもあり、これはお互いが伝えたいことをどうにか伝えようとした、という1つの大切なツールだったと思います。日本でも、人に伝えるというのが難しいと思う時もあるけれど、だいたい伝わるといったような心の持ち様から、あまり今回のように伝えようとする、理解しようとする心はもったことがなかったように感じます。ですが、研修を通して気づいた相手にどうすれば伝わるのか、相手の言うことを理解しようとする心の大切さを意識することで、何か今後に活かせるのではないかと考えました。これは、当たり前のようにできそうでできないことに私は気づきました。伝えようとする、理解しようとする心を持つだけでこんなにも相手の目をしっかりと見て、どんどん知りたいから、頭の中で英語を並び替えて、そんな時間が私はとても幸せでした。たしかに、慣れない環境から話しにくいこともあり、伝わらないことに対してあの時こう言えばよかったのに、と反省もありました。しかし、人との交流を重ねる中で楽しさと大切なことに気づくことができました。

医療職を目指す者として、患者様や他の医療者とのコミュニケーションが欠かせない環境で、伝え漏れ等が許されない、責任が伴う環境ではありますが、技術だけでなくコミュニケーションを通して私を見たら安心できると思ってもらえるような医療者を目指したいと思います。そのために、これからも今回のようにたくさんの方と話す機会をもち、そしてその貴重な時間の中からコミュニケーションについて学んでいきたいと思います。

2つ目は、異国の医療を知ることの大切さです。カンボジアでは学校、その隣にクリニックがある場所を見学させてもらいました。ここでは、交通事故による怪我が多く、またワクチンを取り扱っており、分娩室もありました。しかし、重症や難関な分娩の場合は、遠く離れた病院まで運ぶそうです。そのクリニックから患者さんを別の病院へと運ぶにはかなりの時間がかかると思われます。実際に、私が街からそのクリニックまで移動した道はとても長く、そして速度を落とさなければ危険な道ばかりでした。逆に、街には少し歩けばすぐにクリニックがあり、日本よりも多いのではないかなと感じました。

現地では1件の街のクリニックも見学させてもらいました。入るとすぐに、患者さんが横になられていました。私は驚きました。日本では、プライバシーの問題から必ず個室になっていますが現地では違いました。日本では、待合室での待ち時間が生じてすぐに見てもらえないことが多いですが、私は病院に入るとすぐに医師がいてとても行きやすい病院だなと感じました。実際に、ある方がここの先生は腕がよくて、すぐに治してくれると語っていました。

さらに、日本でいう総合病院のような大きな病院も見学させてもらいました。ここでは、驚いたことに日本人の保険などについてのサポート窓口が設置されていました。また、科もたくさんあり、多くの人が診察を待っていました。

私が、研修に参加したいと思った理由の1つが医療機関を見学できることでした。それは、今後医療職を目指す中で世界といった広い視野で医療と向き合い、私自身を成長させることはもちろん、将来どこかでこの経験が必ず生きてくると感じたからです。なかなか頻繁に、このような機会はありませんが自分の目で見るのと調べるのでは全く景色が違いましたし、もっと世界の医療に興味が湧きました。これから、大学生活での学びが3年程、その後就職しても学び続けることに変わりありません。今回の経験をもとに、さらに視野を広げて医療と向き合いたいと思います。

3つ目は、感謝の気持ちです。今回の研修では、学ぶ機会を与えてくださり、企画・同行してくださった先生方、メコン大学の先生・学生さんがいてくださったので私は最後までたくさんの経験ができました。そして、フリータイムの日にはメコン大学の方が一緒に行動してくださり、博物館や王宮を案内してもらいました。

そこでは、どんな歴史があり、どういう物だといったことを詳しく丁寧に教えてくださり、私たち日本の大学生だけで行くとこのような学びはなかったなと感じる程濃密な時間を過ごさせて頂きました。ここで、メコン大学の方がカンボジアの歴史をたくさん教えて下さったように、私もこれを機に日本のことについてもっと興味を持っていきたいなと思いました。メコン大学の方が次に日本に来た時は恩返しできるようにしたいと思います。

さらに、現地の方はいつも私達にとても親切で笑顔で接してくれました。そして、研修を終えた今では、異国へ来ることの不安や楽しみさを感じた私のように、今後日本へ来る方が困っている時には積極的に声を掛け、たくさんの方と触れ合っていきたいと思います。

〈カンボジア王宮〉

〈CMU の学生と共に〉

カンボジアでの異文化交流の経験の日常生活における活かし方について

人間教育学部　2111202　井阪　裕哉

今回のカンボジア研修における一番の学びとして挙げられる点は、別の言語、文化を持つ相手と交流する力を身に着けることができた点であると考える。

まず、会話については実際に今回のカンボジア研修に参加する以前は、海外での日本語の通じない相手との会話という行為自体を不安に思っており、今回の研修における主軸が、メコン大学の学生との交流という点に置かれていたことに対して、うまく交流はできないものとなると予想をしていた。しかし、メコン大学の学生との交流も思っていたよりもうまく行うことができ、加えて自分自身で低いと実感している英語力でも、リスニングの部分では苦労することが多いものの、自分の伝えたいと思っていることを、何とか思いつく英単語を使うことで伝えることは比較的容易であることが理解できた。

また、交流を行ったメコン大学の学生だけでなく、現地のトゥクトゥクの運転手やコンビニエンスストアの店員においても、会話を行うことができていたため、別の言語を使う人たちとの交流は思った以上に難しいものではなく、積極的に行うべきであると理解した。加えて、スマートフォンの翻訳機能を使うことで、細かいニュアンスについても伝えることが容易にでき、別の言語との交流についてはほとんど恐れる必要のないものになりつつあると考えられる。

今後の生活においては、自分のほかの言語を使ったコミュニケーションに対することにもう少し自信を持ち、その中でもよりグローバル化していく今後の社会で、ほかの言語を使う相手と気兼ねなく話すことができるように、今回の研修で結ぶことのできた縁をモチベーションにすることで、よりほかの言語を使った相手とのコミュニケーションを円滑に進められるように、英語を日常生活でもより活用しながら、学んでいきたいと考える。

次に、文化については、カンボジアにおいて日常とされている文化に多数触れることができ、日本において日常的なことが、世界においては全く違うということが身に染みて理解することができた。一番衝撃を受けた点としてはトイレの仕様が日本のものとは全く違うものとなっていたことがあげられる。機能が全く違うものであっただけではなく、清潔感も全く違うものとなっており、公衆のトイレを使用することとなったときには、かなり躊躇しながら使うこととなった。

また、学校を視察した際にも、日本の学校とは全く違う教育が展開されており、国によって全く違う教育の在り方を学び、ただただ日本の教育の在り方だけを見て行うのではなく、ほかの国の教育の在り方から良い点などを見つけ、取り入れることも大切だと考えるきっかけとなった。

実際、カンボジアの学校で採用されていた2部制の教育というのは、日本の学校にはないものであり、それは国ごとの子どもの役割によって違うことは理解していながらも、子どもの自由な時間という点だけで考えるのであれば日本の学校よりも多く設けられているため、子どもをより自由に、のびのびと育てるという考え方をするのであれば、日本の学校教育にも週に一日ほどあってもよいのではないかなど考えたりもした。

このように、カンボジアという日本とは全く違う文化について触れ、文化の違う点からよりよいと思えるところを探そうとする視点が身についたと考えられる。この視点は、今回のような異文化との交流だけに限らず、子どもを教育していくうえで、一人一人の個性や良い点を見つけることができるようになる一歩であると考えられるため、普段からそういった視点でほかの人たちのことを見るようにしたいと考える。

また、カンボジアにおける日本とは少し違う考え方に触れることを通して、以前よりもより他の考え方に対する理解力が深まったと考えられる。これは世界には全く違う考え方があるということに対する認識を、実際に触れたことでより強固なものにできたことによる力の深まりであると考えられる。この力は日常生活で他人に接していくうえでも、教師として様々な子供たちの考え方に向き合っていくうえでも、大切な考え方であると考えられるため、この力をより深めることができたことは、今後の人生における考え方としてより良いものであると考える。今後も、様々な文化に触れることで、様々な考え方やほかの人との違いを理解できる力を伸ばせるようにしたいと考える。

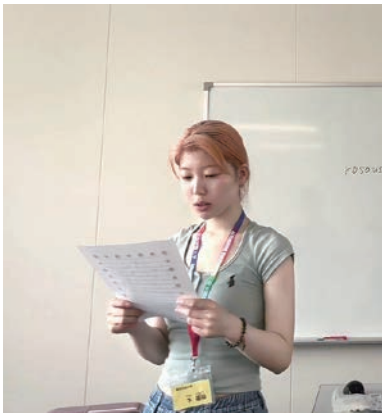
今回のカンボジア研修においては、日本や自分たちとは全く異なる文化考え方について触れられたことが一番の収穫であると考える。また、今回のように全く異なる文化、考え方に触れたいと思った。

〈公立中学校の授業前の様子〉

〈カンボジア王宮〉

「奈良学園大学夏期研修」 蘇州科技大学

卞阳阳

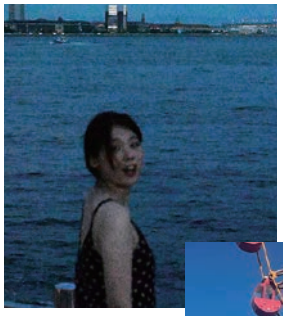


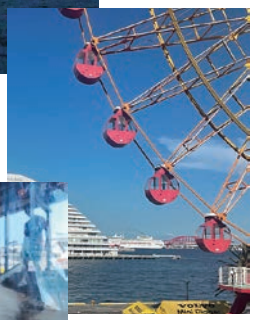
この短い三週間、私はたくさんの収獲を得て、たくさんの体験がありました。初めて尺八に触れ、それが隋唐時代に生まれた中国の伝統的な竹楽器であることを知りました。 ハワイを代表する手・足・腰の動きを中心とした舞踊音楽であるフラダンスを初めて習ったこと、浴衣を初めて着たこと、花火大会に初めて参加したこと、メイクアップ体験に初めて参加したこと……どれも私にとって特別な思い出である。

周君逸

ポストウイルスの時代にこの夏期スタディープログラムに参加して私の憧れの国に行くことができて、とても幸せです。午前中の授業のほか、浴衣体験、尺八体験、フラダンス体験など、充実したスケジュールが用意されています。京都の日帰りツアー、奈良の日帰りツアー、野迫川村での宿泊など、お出かけもたくさんあります。3週間の短い間に、私は日本の復雑な鉄道交通を把握し、人々との日常的な交流を学び、他の国からの多くの友人と知り合いました。

蒋静旖





今年の夏、研修プログラムのおかげで初めて日本に来ました。初めて日本に来たのは張先生と渡邊先生が私たちをここの生活に馴染ませてくれたからです。三週間の研修体験は、私にもっと文化や風習から日本文化を体験させてくれました。私も本当に以前に本で学んだ日本語と現実の日本を結びつけて、言語の背後にある文化の違いと魅力を深く感じさせました。挨拶を通じて日本人の礼儀を感じたり、ゴミの分別を通じて日本人の厳しさを感じたりするなど。

ここでも奈良学園大学の研修プログラムへの入念な準備に感謝しています。例えば野迫川村の1泊2日、人生で初めてこんなに魅力的な花火大会を間近で見ました。私も学園が用意してくれた浴衣体験に感謝しています。美しく優しい先生がこまめに浴衣の着こなしを教えてくれました。尺八体験、メイク体験など、日本の文化を肌で感じさせてくれて、いい思い出がたくさんできました。

それだけでなく、地域によって異なる授業の先生は私たちに異なるスタイルの面白い授業をもたらしてくれました。90分に1つの授業があっとい

う間に過ぎて、退屈になったことはありません。

ここで、奈良学園大学のすべての先生に改めて感謝します。学校が私にたくさんの素晴らしい思い出を与えてくれて本当にありがとう。私たちに多くの世話をしてくれた張先生や渡邊先生など優しい先生やクラスメートが恋しいです。どうもありがとうございます！

高张琳

今回の海外交換プログラムはとても勉強になりました。ここで、私達は学問の視野を広げるだけでなく、様々な文化を学ぶことができました。

日本は長い歴史と豊かな文化を持つ国です。学校はまた2回の学外活働を組織して、歴史の名城京都と鹿で有名な奈良に行って、私達に日本の美しい風景と本当の風土と人情を感じさせます。また、浴衣や尺八などの日本の伝統文化も私に深い印象を残して、より深く日本の文化を理解しました。今回の日本での留学期間には、更に様々な国からの留学生がいて、私に全世界の異なる文化と交流する機会を提供することができました。たくさんの親切で温かい友達に恵まれました。彼らは学習生活の中で私達に関心と助けを与えてくれて、私達に異国の地で温かさを感じることができます。

最後に、日本奈良学園大学に感謝して、すべての先生に感謝して、とても幸運なこのような素晴らしい段階で出会って、また私達を変えて、私達に大胆に表現させて、活力、勇気、情熱、力に満ちていて、新しい自分を見ました!

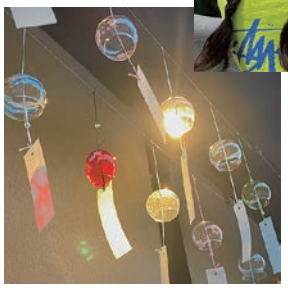
周欣

今回の短期交流プロジェクトは私に大きな利益をもたらした。日本語の知識を学んで、日本の特色の文化を体験して、和食を味わって、日本式建築を鑑賞して……すべての経験は私に記憶に新しい。授業中も授業外も、奈良学園大学は私たちに多くの助けを与えてくれて、私たちのことを大切にしてくれています。このような貴重な機会を与えてくれた奈良学園大学に感謝しています。

毛茗

今回の日本留学の経験は、多くのことを学ばせてくれました。まず、その土地の文化に溶け込み、その土地の習慣や伝統を尊重することを学びました。次に、私は実践の中で日本語の話し能力を高めて、更に上手に日本語を使って交流して、毎日日本各地から来た人と付き合うことができて、これは自分の大学では持つことができない機会です。また、私は日本での生活の中で、自分の生活の自立能力を高めて、炊事、洗濯などの日常技能を鍛えました。

最後に、私は日本で多くの新しい友達を作りました。日本からの学生がいて、台湾、青島、カンボジアからの学生もいます。本当の意味で「友達は世界中にいる」を実現しました。彼らの情熱と友好は私を温かく感じさせました。この友情は今回の旅で私にとって最も貴重な財産です。



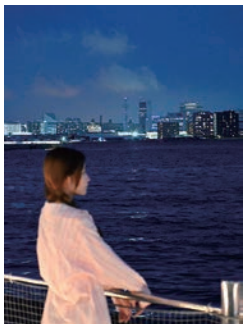
潘珊

まず最初に、張先生と渡邊先生に感謝申し上げたいと思います。また、奈良学園大学の心のこもったおもてなしに感謝したいと思います。あっという間に、三週間が過ぎました。その間、日本の先生への皆様の、ご協力のもと、浴衣体験、化粧体験、野迫川村の宿泊研修など、充実したスケジュールを無事にこなすことができました。さらに、市内観光や芸術鑑賞の機会にも恵まれ、日本に対する理解をより深めることができました。

沙穎

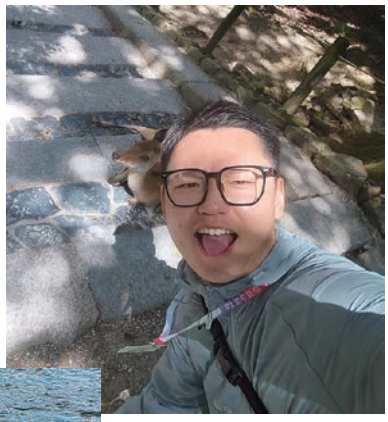
三週間の旅は短いながらも私に永遠の価値をもたらしてくれました。異国の風土や人情をこんなに深く感じたのは初めてで、どのように日本で生活するか、電車に乗るか、ゴミの分別方法などを学びました。日本と中国の多くの違いを発見し、これらの小さな違いの中で、国と国の違いを感じ、自分の視野を広げました。

奈良学園大学で学んでいる間、学校は私たちに尺八体験、フラダンス体験、浴衣体験、化粧体験など多くの日本文化体験を提供してくれただけでなく、京都と奈良にそれぞれ行った2回の学外活動を組織してくれました。日本の文化を感じながら、奈良学園大学の留学生たちへの情熱を感じました。どの先生もとても優しくて、忍耐強くて、特に渡邊先生と張先生は私の世話をしてくれて、たくさんの励ましをくれました。



ここでは奈良学園大学と蘇州科技大学がこのような得がたい文化交流の機会を提供してくれたことに感謝して、私にもっと広い世界を見せて、もっと自信があって、勇敢になります。

王依喆



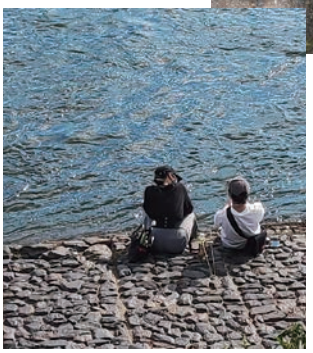
以前は、自分の日本語に自信がないでした。日本に来てから、先生たちは私が話し、自分を表現するように励ましてくれました。今は自信を持って日本語を話します。

あっという間に3週間が過ぎました。携帯で日本で撮った写真を見ています。まだあの3週間が恋しいです。寂しい感覚があります。日本の皆さんに会いたいです。

学習について、多くのことを学びました。本の内容だけでなくて、日本の文化もたくさん学びました。学校で行われている様々なイベントは、私が日本の生活に溶け込むのを助けてくれます。

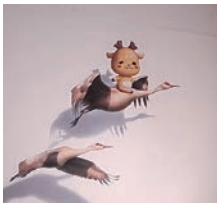
野迫川村でのボランティア活動が決して忘れないです。

美しい花火大会、熱心な人々、綺麗な風景、忘れない宿泊体験など。その夜、私は下手な日本語で、英語を混ぜて、渡邊先生とチャットをしました。珍しい経験です。



最後に、夏期交流の機会を与えてくださった奈良学園大学に感謝します。そして、学長先生、先生方、私たちの学習と生活に対する配慮に感謝します。いつも、大変お世話になりました。

「アニキ、世奈さん、海藍さん、皆さんに会いたいです！」



馬源

先生たちがこのプロジェクトに参加する機会をくださってありがとうございました。正直に言うと、申し込みの時、このプロジェクトは授業中の勉強に偏っていると思っていました。実は私たちの自由な活動を体験する時間はかなり多く、一部の学校で組織されている活動も豊富で、日本の風土や人情をよく体現しており、体験感は予想を超えていると言えました。

出会う様子

忘れられない経験

いつもお世話になりました！

ありがとうございました！

豊かな研修

青島城市学院　郭　岩志

三週間の奈良学園大学の研修が終わりました。とても幸せを感じます。ここで世界の色々な人に会えるのは素晴らしいことです。お世話になった学校の皆様、本当にありがとうございました。

まず、尺八を試してみると、本当に難しかったと思います。何度試しても音ができません。もうやめたいと思ったが、左を見ると、ケオさんがとても頑張っている練習します。ケオさんがんばっているのに、あきらめるのはくやしいから、私は練習続けた。

さらに、研修中で、浴衣の試着もしてもらいました。最初、浴衣を着るのが少し難しかったです。自分の国にはこのような服はない。先生の助けのおかげで、着てみるととてもいい感じです。同時に、先生の浴衣への愛も感じます。助けてくれた先生方にとても感謝しています。

8月2日に、先生と一緒に奈良公園に行きました。公園には鹿がたくさんいました。鹿がせんべいをあげるのはとても楽しかったです。鹿がせんべいを食べると美味しそうなので、自分で試してみました。小麦の味でした。

大学のキャンパスは小さいですが、綺麗でした。日本に来る前は、日本は静かな国だと思っています。実際に奈良来てた、確かにそうだと分かりました。例えば、車の騒ぎもなければ、大都市には人混みはありません。

しかし、時々大阪に行きました。大阪では、町の人々が急いでいるし、誰でも忙しそうに見えました。やっぱり、静かなところが好きなんです。

夏期日本語研修プログラムについて

青島城市学院　許　雅馨

How time flies, and in the blink of eye, the 21-day Japanese study tour ended. I am very honored to be one of those students who went to Japan for the study tour. In this period of life, I not only broadened my horizons, increased my knowledge, but also harvested many precious things.

Through this study tour, I have gained a deeper understanding of the differences between the education systems, cultural customs, and dietary habits of Japan and other areas. This has made me have a more tolerant and respectful attitude towards the diversity of cultures.

During the study trip in Nara, I made friends with classmates from different areas. We studied and lived together, and established deep friendships. The study tour experience I spent with friends from different cultural backgrounds is something that I will never forget and bear in mind. Being in a foreign country, I faced various challenges at first, such as dealing with daily life matters independently, overcoming communication barriers, and adapting to a new environment. Date back to the early days, I remember how I was initially overwhelmed and filled with self-doubt every day. Fortunately, with the assistance and guidance of teachers and classmates, I gradually adapted to the local life and regained my confidence. I am very grateful to the amiable teachers and everyone that I met.

A great person once said, "The time when a person makes the fastest progress is when they lose their sense of security. They must overcome fear,dependence,disappointment, and grow their own armor." Although the whole process was challenging for me, I truely enjoyed it: learning from others through communication and interaction, improving myself during the study tour, expressing my true feelings, and experiencing the process of constantly enriching and enhancing myself. The experience in Japan undoubtedly enhanced my adaptability and problem-solving skills. At the same time, I also learned how to protect myself and enrich myself. This experience has brought me various achievements and growth, shaping me stronger and making me a more charming person.

The memories of the past days in Nara are vivid in my mind. Some people may only meet once in a whole lifetime, such like us . Though it's a short journey, I am happy to made you acquantance. You are like brilliant fireworks in the bottom of my heart. It's my sincere hope that Nara Gakuen University would have a profounded future.

君と過ごした日々を

台湾国立屏東科技大学　謝孟言

最初に、奈良学園大学、社会・国際連携センターの先生方、および屏東科技大学の先生方に感謝申し上げます。この夏の日本語研修プログラムは、単なる観光とは異なり、日本語の学習だけでなく、より深い地元の世界文化観と困難を乗り越える能力をもたらしました。事前の準備、プログラム中の取り組み、後での反省と気づきは、この25日間の一部であり、帰国してからも懐かしく思い出されます。初めて勇気を振り絞って参加を申し込んで、このように素晴らしい思い出を得ることができて幸運だと感じています。

学校は夏の研修プログラムを大まかに2つのテーマに分かれていました。1つ目は日本語の学習であり、もう1つは文化体験です。1日のスケジュールは午前と午後の2つに分かれており、午前中は日本人の先生による「できる日本語」と「自編教材」による授業が行われました。昼食時間には自由に過ごすことができ、学校の食堂で食事をするか、近くのセブンイレブンやファミリーマートで食べ物を買うことができました。午後には文化に関する学習が予定されており、伝統的な浴衣の着付け、折り紙の教室、ハワイアンフラダンスの練習から、現代のメイク技術など、色々な体験活動が行われました。

また、2日間の奈良と京都の観光も含まれており、プロのガイドさんと学園の院生一緒に、和民族の美を理解する機会もありました。

私にとって、この旅の意義は言語学習や国の習慣と文化を知ることだけでなく、"人との出会い" にあります。奈良学園大学で、親しみやすく元気な善野センター長と出会い、奈良で有名なかき氷屋さん「宝石箱」を紹介していただきました。角膜潰瘍の時には、まるで母親のように私たちを気遣い、世話してくれた張亞英先生。真剣に責任を持って発表会のアドバイスをくれた小出先生、そして大学のスタッフ全員、美味しいハンバーガーを作ってくれる食堂のおばさんや、熱烈な歓迎をしてくれた学生たちがいたおかげで、私の夏の研修プログラムが輝かしくなりました。

金閣寺から春日大社、天神祭から奈良灯花会まで、わずか1か月で関西地方全体を探検し、奈良の路地裏を歩きました。毛茗さん、岩志さん、Sisiさん、屏東科技大学の仲間たちと一緒に残した足跡やあかりさん、特別聴講生の皆さんと楽しんだなにわ淀川花火大会など、すべての思い出が花火の輝きと共に次第に過去になっていくかもしれませんが、それでも、一生の宝物として心に残ります。

旅の中で争いや挫折が避けられない瞬間もありましたし、駅員に冷たく扱われた経験もありました。どんな試練でも成長の機会であることを理解しました。この旅が私に教えてくれたことは、あらゆる状況に対処する自信を持ち、自分の能力を向上させ、国際的な視野を広げることでした。この旅から得られる収穫は自分次第であり、学校が提供してくれた貴重な思い出に感謝しながら、将来の大きな挑戦に立ち向かうために、この経験を思い出し、前進することを願っています。

夏期日本語研修レポート

台湾国立屏東科技大学　張　鉦勳

この夏の留学計画で、幸運にも奈良学園大学に来ることができ、ここで 3週間のコースを開始しました。最初は場所も分からず戸惑いましたが、先生方はとても親切で、地元の生活に溶け込む手助けをしてくれました。ここで異なるキャンパスライフを体験し、朝から活気に満ちた登校のウォーキングから始め、異なる通りや風景を見ることができ、私が日本で憧れていた生活です。都市の騒音が減り、車のクラクションが聞こえず、静かで新鮮な環境が増えました。学校に到着すると、警備員が熱心に挨拶し、私の一日を始めました。学校での授業は、先生が生き生きとした方法で行われ、つまらない授業も面白く感じました。また、プレゼンテーションを通じて他の学生や先生とも交流する機会がありました。

学校での授業以外にも、多くの体験クラスやフィールドトリップがあり、浴衣や尺八やフラダンスやメイクなどの体験がありました。最初は浴衣の着付けが少し面倒でしたが、先生が忍耐強く手助けしてくれ、一度着ると格好良く見えました。その後、街を歩きながら写真をたくさん撮りました。次に、尺八の体験があり、これは台湾では接触したことないの楽器で、音を出すために吹く必要があり、経験と技術が必要です。最後に、先生が尺八で演奏を披露し、その努力と技術に感銘を受けました。

次に、フラダンスの体験があり、ダンススタジオで草のスカートを着て軽快な音楽に合わせて踊る感覚は、まるでハワイにいるようでした。その後、先生がステップを一つ一つ教えてくれ、最初は手と足が不器用でしたが、先生は丁寧に指導し、最終的には踊れるようになり、楽しい経験でした。最後の体験はメイククラスで、普段メイクをしない私は初めてメイクに触れました。顔の洗浄からファンデーションやアイメイクまで、新しい経験で、普段女性がメイクにかける努力と変化を理解しました。

学校の体験クラスに加えて、京都と奈良の外部訪問もしました。京都では金閣寺と東映太秦映画村を訪れました。最初に金閣寺に行き、金閣寺を散策し、寺院の歴史と建築の特徴を理解しました。湖には寺院の美しい反射が映り、美しい光景でした。次に、東映太秦映画村に行きました。これは日本の古代と現代の都市のシーンが精巧に再現され、映画やテレビドラマの撮影に使用されています。観光客はこれらの場面を見学し、映画製作の舞台裏を深く理解できるほか、映画の歴史と発展を紹介する博物館もあります。また、有名な映画やテレビドラマのキャラクターと写真を撮影して楽しむことができ、体験イベントも参加できます。その他にも、忍者体験館や「史上最も恐ろしいお化け屋敷」という名前のお化け屋敷など、参加できる体験があり、非常に楽しかったです。東映太秦映画村は写真を撮るのに最適で、一日中楽しむことができました。

2 回目の外部訪問では、奈良の名所を訪れました。春日大社、東大寺、志賀直哉旧宅、平城京を訪れました。早朝に春日大社と東大寺を訪れ、歩いていると梅の花鹿がたくさんいました。春日大社と東大寺は広大なエリアをカバーし、歴史的な建築の特徴を持っており、文化を理解する意味で非常に意義深い訪問でした。散策しながら森林に囲まれ、新鮮な空気を楽しむことができ、自然の中に身を置いて歩くのを忘れました。道路脇の小川は非常に清澄で、小さなカニを見つけることができ、非常に驚きました。志賀直哉の旧宅を訪れ、古風な雰囲気を感じ、静かで落ち着いた気分になりました。最後の訪問地は平城京で、寺院そのものはあまり計画やデザインがなく、暑さのためにエネルギーを失いました。これは今回の旅行の中で少し残念な部分でした。

学校の提供するアクティビティ以外にも、自由な時間がたくさんありました。大阪、京都、奈良を自由時間を利用して訪れ、毎日充実して楽しい時間を過ごしました。さらに、夏休みのおかげで多くの日本の祭りに参加する機会があり、特に八板神社の紫苑祭りが印象的でした。台湾の賑やかな雰囲気とは異なり、静かな巡礼が中心で、非常に特別でした。また、2回の花火大会にも参加しましたが、特に淀川の花火大会は印象的で、花火が打ち上げられる前に多くの屋台が並び、花火を楽しむ間食べ物を購入でき、美味しい食事を楽しみながら花火を鑑賞することができ、素晴らしい体験でした。

この日本の滞在は本当に多くの異なるアクティビティを体験し、多くのことを学び、素晴らしい思い出を残しました。ただし、食べ物に適応するのが少し難しかったため、お腹が不快に感じることがよくありました。それ以外はすべて素晴らしい経験で、将来機会があればまた訪れたいと思います。

台湾国立屏東科技大学　李　千玉

日本に来るのは初めてですが、とても嬉しいです。学校のみんなはとても優しくて、一緒にご飯を食べたり、一緒に遊んだりしています。日本での生活を経験できてとても幸せです。日本の街はとてもきれいで美しいし、食べ物もおいしいし、お好み焼きが一番好きです。学校でもたくさんの友達ができましたが、みんな国籍が違うので、最初はとても恥ずかしがっていましたが、最終的には何でも話せる友達になりました。奈良学園大学の皆様、3週間お世話になりありがとうございました、またお会いできる機会があれば幸いです。

台湾国立屏東科技大学　陳　又心

Our curriculum is collaboratively edited by all instructors, and the teaching materials are organized in a way that follows the content of the materials. The teaching approach is progressive, starting with simple and essential conversational phrases for everyday life in Japan. Given that we are a short-term study abroad program, our primary goal is to enable students to survive in Japan. Therefore, the initial part of the curriculum focuses on teaching basic but practical phrases, such as asking about someone's nationality, birthday, and name when meeting them for the first time, inquiring about the location and price of items when shopping, or ordering food in a restaurant.

Following this, we delve into more in-depth topics, such as introducing one's hometown, its location, size, distinctive cuisine, or seasonal characteristics. For students who become more proficient, the curriculum also includes guidance on how to successfully invite friends to hang out and how to politely decline invitations when already committed. After interacting with others, we learn to introduce the unique features of our hometown, landmarks, or climate.

What sets our teaching approach apart is that it goes beyond traditional methods. After a round of explanation, instructors ask us to engage in role-playing exercises using the dialogues provided in the course materials. This ensures that we not only understand the content but can also apply it effectively. This method proves highly efficient because, through interaction, each student clearly comprehends the objectives of the lesson and is able to articulate them. Furthermore, due to the vivid experiences gained, memory retention of the lesson content is rapid.

One significant drawback of this approach is that it is best suited for small class sizes. If the class size exceeds 20 students, it might become less effective as it becomes challenging to cater to the needs of every individual. However, in our class, it is perfectly suitable and effective.

令和5年度　奈良学園大学　東アジア文化交流研修 in 沖縄

日 時　令和5年9月4日（月）～9月6日（水）
奈良学園大学側会場：3号館3302教室

内 容　【キャンパスツアー】

【意見交換・交流会】
・参加人数　19名（奈良学園大学6名、琉球大学13名）
　奈良学園大学内訳
　＊特別聴講生4名
　＊事務職員2名
　琉球大学内訳
　＊学部生6名（教育学部、工学部、人文社会学部）、大学院生3名（工学部）
　＊教員2名（教育学部、工学部）
　＊事務職員2名（学生部国際教育課、総合企画戦略部国際連携推進課）
・参加者出身国6ヶ国（日本、中国、韓国、アルゼンチン、バングラデシュ、シリア、）
・テーマ　日本での生活について
・教育学部准教授によるミニ講義
　「児童への睡眠習慣の改善の取り組み」

【スタディーツアー（名所訪問）】
・参加人数　8名（奈良学園大学6名、琉球大学2名）
・斎場御嶽、ひめゆり平和祈念資料館、おきなわワールド、首里城

東アジア文化交流研修を終えて

蘇州科技大学　王雅蕭
黒龍江東方学院　康窈嘉　姜鑫爍　孫家苹

琉球大学では、まず歴史的な資料がたくさんある琉球大学の図書館を見学したが、そこには様々な国の学生が交流し、一緒に勉強している姿がたくさんあり、皆とても真剣に勉強していた。交流会では、日本人学生だけでなく、他国の学生も交えて、日本に来てからの外国人の生活、中国と日本のアルバイトの違い、中国人と日本人の親が子供を扶養する文化の違い、日本のトイレ文化の素晴らしさなどについて話し合ったが、最も印象的だったのは、日本文化をよく理解していたアルゼンチンの学生だった。アルゼンチン人学生から「なぜ日本の大学生は多くの時間をアルバイトに費やすのか」という質問があり、それに対して意見が分かれたが、結局正確な答えが出なかったことが特に印象的だった。 交流会終了後、居酒屋で夕食を共にし、日本人学生と中国と日本の生活習慣、学習状況、文化の違いなどについて親しく交流し、忘れられない有意義な時間となった。

沖縄では、シーサーの手芸品、沖縄そばなど、琉球の独特な古い文化がある。私たちは琉球大学の学生たちと一緒に、おきなわワールドに行き、そこで琉球風の舞踏を鑑賞し、石のシーサーに色を塗り、玉泉洞を訪れた。玉泉洞は、沖縄で一番目、日本で二番目に大きい鍾乳洞で、東南アジア最大の地下美術館の称号がある。この日は猛暑だったが、玉泉洞の中はしっとりとして涼しかった。玉泉洞を見学した後、私たちは自然の鬼斧神工に圧倒され、琉球の自然景色の魅力を感じた。

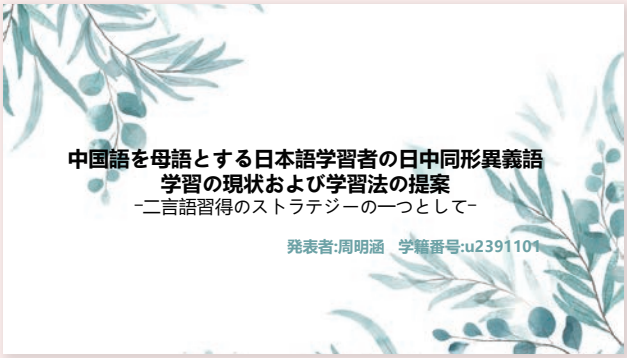
次に訪れた首里城は、沖縄県首府那覇市の標高約120メートルの高台に位置する。琉球王国のシンボルで、1429年から琉球王朝の居城として始まった。首里城は琉球王国の政治、外交、文化の中心地として知られている。中国と日本の文化を融合させた独特の建築様式と石積み技術であり、文化と歴史の面で高い価値がある。現在の首里城では、ガラス窓を通して復元工事の過程を見ることができ、首里城の復元をはっきりと直観することができる感覚が不思議で、かつての歴史だけでなく首里城の未来も見えてきた。

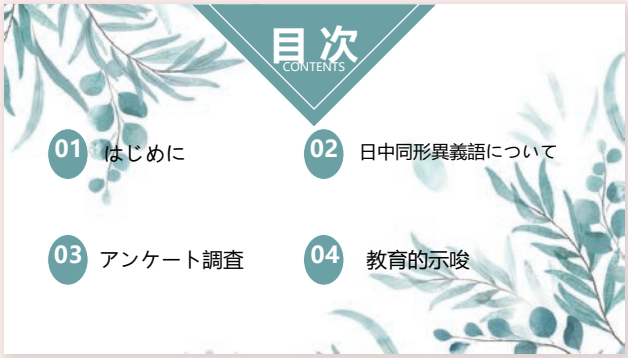
斎場御嶽は、現在の沖縄南城市（旧知念村）にある史跡である。15世紀-16世紀の琉球王国尚真王時代の御嶽のため、国の最高神職聞得大君が管理していた。斎場御嶽は琉球国時代の最高級御嶽であり、祝女は斎場御嶽の三庫理で琉球神道の最高聖地久高島を遥拝することができる。斎場御嶽は2000年11月に琉球王国の城及び関連遺産群として世界遺産に登録された。沖縄斎場御嶽は琉球国時代の文化をある程度理解できた。

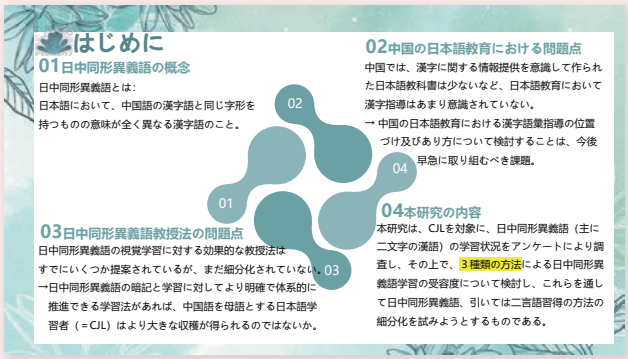
今回の研修では多くの国の学生と交流ができ、沖縄に残る史跡を幾つかめぐることができ、得るものがたくさんあった。

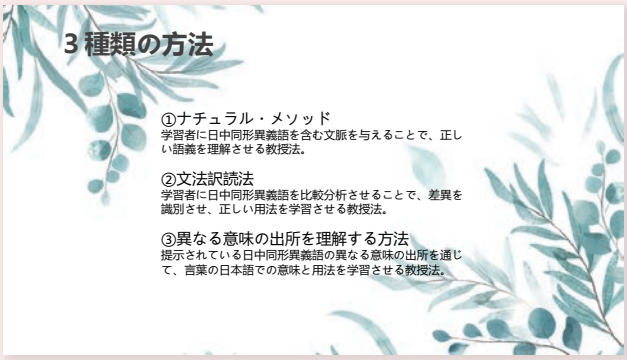
「中国語を母語とする日本語学習者の日中同形異義語学習の現状及び学習法の提案」
―二言語習得のストラテジーの一つとして― PPT

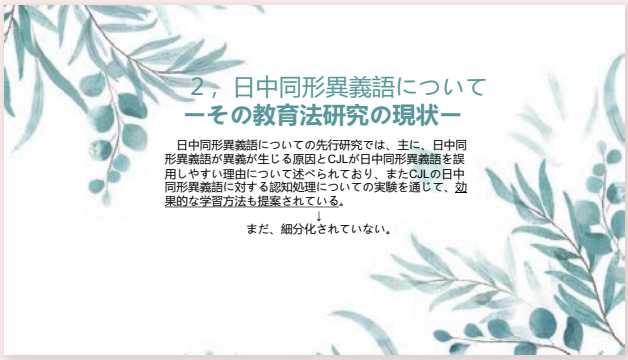
蘇州科技大学　周明涵

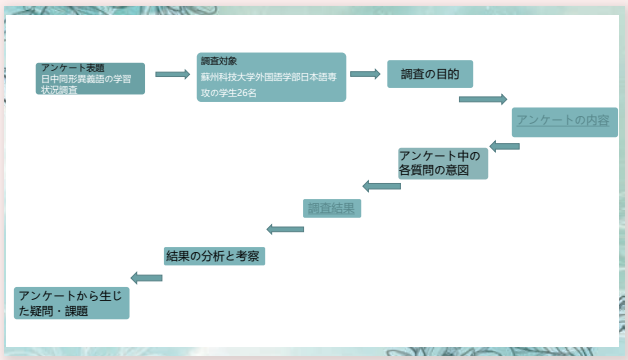












アンケートの内容

質問１：普段、学習する上で、日中同形異義語を習得するのは難しいと感じていますか。

質問２：普段、学習する上で、日中同形異義語の意味を誤解し、そのために誤った使い方をしたことがありますか。

質問３：以下の２種類の日中同形異義語学習法のうち、どちらがより効果的だと思いますか。
方式一：直接記憶する　方式二：文法訳読法

質問４：以下の２種類の日中同形異義語学習法のうち、どちらがより効果的だと思いますか。
方式一：直接記憶する　方式二：異なる意味の出処を理解する

質問５：以下の２種類の日中同形異義語学習法のうち、どちらがより効果的だと思いますか。
方式一：直接記憶する　方式二：ナチュラル・メソッド

質問６：普段、どのような方法を用いて日中同形異義語を覚えていますか。自由記述してください。

調査結果

質問１：普段、学習する上で、日中同形異義語を習得するのは難しいと感じていますか。

選択肢	小計	比例
はい	23	88.46%
いいえ	3	11.54%

質問２：普段、学習する上で、日中同形異義語の意味を誤解し、そのために誤った使い方をしたことがありますか。

選択肢	小計	比例
はい	24	92.31%
いいえ	2	7.69%

調査結果

質問３：以下の２種類の日中同形異義語学習法のうち、どちらがより効果的だと思いますか。
方式一：直接記憶する
方式二：文法訳読法

選択肢	小計	比例
方式一	6	23.08%
方式二	20	76.92%

質問４：以下の２種類の日中同形異義語学習法のうち、どちらがより効果的だと思いますか。
方式一：直接記憶する
方式二：異なる意味の出処を理解する

選択肢	小計	比例
方式一	10	38.46%
方式二	16	61.54%

調査結果

質問５：以下の２種類の日中同形異義語学習法のうち、どちらがより効果的だと思いますか。
方式一：直接記憶する
方式二：ナチュラル・メソッド

選択肢	小計	比例
方式一	8	30.77%
方式二	18	69.23%

質問６：普段、どのような方法を用いて日中同形異義語を覚えていますか。自由記述してください。

アンケート結果から言えること

- 多くの学習者は、普段の学習の中で意識的に日中同形異義語の学習をしているので、特殊な記憶法を用いた学習の受容度が高く、文法訳読法、異なる意味の出処を理解する方法、ナチュラル・メソッドなどといった方法を組み合わせた体系的な方法を試しつつ学習することが可能であると言える。筆者は、学習方法の選択に影響を与えている要因の１つに利便性があると考えている。もし、日中同形異義語の意味を、写真、中日釈義対比、文脈結合、異義出所などの方面から結びつけて説明する教科書があれば、学習者が他の手がかりを探す時間を節約することができ、多くの学習者に選ばれるようになる。

教育的示唆

01 より多くの手がかりを用いて記憶を強固なものにする

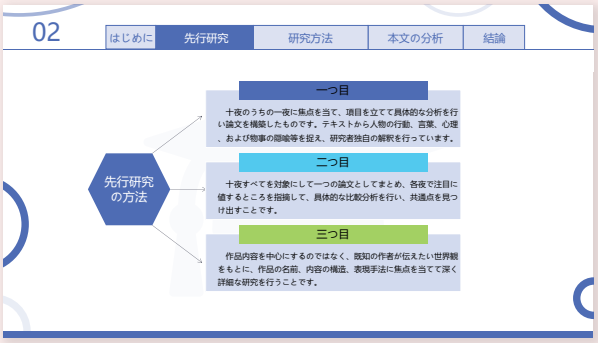
02 視覚と聴覚とを結び付けて学習する

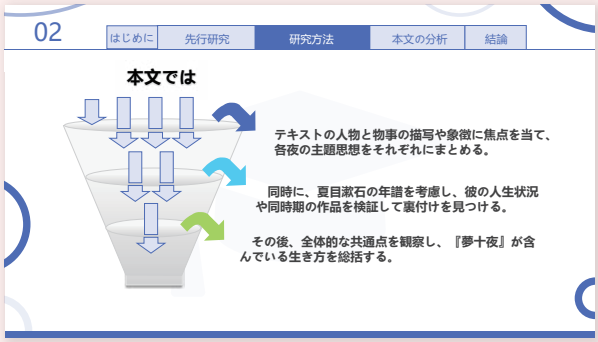
03 補足的な教科書を開発する

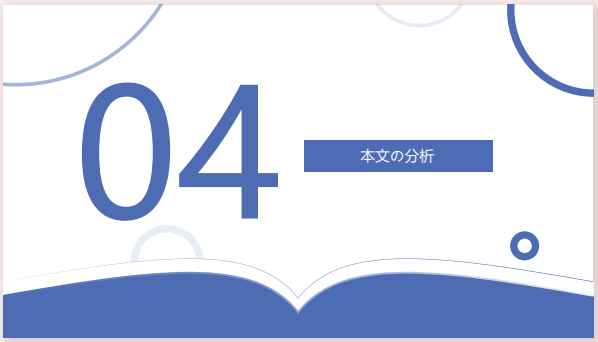
ご清聴ありがとうございました

「夏目漱石『夢十夜』における生き方の探究」 PPT

蘇州科技大学　高晗







04 | はじめに | 先行研究 | 研究方法 | 本文の分析 | 結論

第一夜
女は死んだが、男の私は女の願いで百年待った。
待っている時、百合が出てきた。

この百年間、女が私の記憶の中で生き続けていたら、本当の死ではない。男と女の約束は時空を超え、漱石自身が「文を同代の後に伝えたい」と述べているように、その精神世界はなくならないのである。

第二夜
悟りを開かないと和尚を殺すと言い放った私は、結局悟りを開くことができなかった。

悟りたい武士が留学時期の作者の姿を代表していて、漱石自身の参禅や、留学中の迷いとも大きく関係している。心理的に追い込められたノイローゼに陥り、円覚寺に参禅した際に、西洋文化に対して自分はどういう態度をとるべきなのかと大いに迷っていた。

第三夜
父である私の背中には、百年前に私が殺した盲目の子供がいた。

原因と結果の百年の循環である。百年前の私が盲人を殺したのはその原因で、百年後に子供になって復讐に来たのはその結果である。

第四夜
子供の私は蛇が見たくて爺さんについて川に行ったが、爺さんが水の中に入って出て来なくなるのを見た。

爺さんと子供は、作者の未来と過去を表しているとも言えるし、古いものと新しいものを象徴しているとも考えられる。二人の生き方は生命の循環で、円環のようなものだと漱石はとらえていたのだろう。

04 | はじめに | 先行研究 | 研究方法 | 本文の分析 | 結論

第五夜
天探女は天然の悪意を持って、何の理由もなく私の愛する女を殺したことによって、私の永遠の敵となった。

現実の生活にも存在する天探女と同じような悪意を持っている人間への批判である。

第六夜
私は運慶を真似て一日中木を彫っても、運慶のようには仁王を彫れなかったので、運慶がなぜ今まで生きていたのかがわかった。

彫刻がそうであるし、国の建設もそうであるように、ここには、明治の日本社会が、西洋の制度をひたすらに模倣することに対する、漱石の批判が反映されている。

第七夜
私は不安などいろいろな感情に耐えられず、行く先もわからないままの船から海に飛び込んだが、飛び込んだ瞬間に後悔した。

盲目的に西洋文化を吹聴する社会の雰囲気に対する作者の批判であると共に、後悔することは、私が生きていくことの決心を表す。生きているだけで、船の目的地が分かり、自分の生き方を考え直して新しい生き方を探すことができる可能性を示しているのではないだろうか。

第八夜
私は床面に座って鏡を通して外の世界を観察したいが、いつも白い男に突配された。敬慕を捨てて外に出ると、金魚売りがじっとしていた。

自己本位思想。
何者にも支配されず、自分の仕事を全うすること、そういう生き方に共感しているのではないだろうか。

04 | はじめに | 先行研究 | 研究方法 | 本文の分析 | 結論

第九夜
母親は子供を連れて、実際には既に殺されていた父親のことを祈るのである。

1867年に生まれた漱石は、亡くなる1916年まで、江戸時代から明治時代にかけての日本国内の変革だけでなく、第一次世界大戦、日清戦争、日露戦争など、多くの国際戦争を民衆の一員として目撃した。それが彼の戦争への消極的な姿勢を生み出したのである。

第十夜
庄太郎が女に誘惑されて、大嫌いな豚に抵められてしまった。

漱石の留学体験とは深く関係していて、西洋文化の表面的な良さに惑わされず、客観的な心を持つようにとの戒めと読める。その一方で、パナマ帽を欲しがる健さんの姿には、当時の日本が植民地支配を進めて行こうと国策していたことの象徴も読み取れるのではないだろうか。限りない健さんの姿を、漱石は苦々しく感じていたのではないだろうか。

04 | はじめに | 先行研究 | 研究方法 | 本文の分析 | 結論

夢の構成要素一覧表

	第一夜	第二夜	第三夜	第四夜	第五夜
登場人物	私（男） 女	私（武士） 和尚	私（父） 子供	私（子供） 爺さん	私（男） 女 天探女
私の性格	約束を守る、待てる	イライラ 待てない	冷たい 子供を愛さない	単純 好奇心	粘り強い 不屈
時代背景	不明	不明	文化五年1808年 現在1908年	不明	神代に近い昔
場所	墓	那屋（寺）	森	河原近く	敵の軍営
時間の捉え方	百年が経っていた	短い時間（時計）	百年が経った現在	比較的短時間	一夜
結論の描き方	私は百年がきたと気づいた	時計がチーンと打った	私の記憶の蘇りと感覚変化	私が一人でいつまでも待っていた	天探女は私の敵だ
生と死の描き方	女が男に死後百年待って欲しいと求め、男が待った	私が悟ることができずに生きている	100年前私が盲目を殺した現在殺した盲目は私の子供	爺さんが川に入たきり、上がってこなかった	女が天探女によって殺された
人としての生き方	男はずっと待っている	一生懸命に悟ろうとするが、失敗した	背負った子供に導かれて杉の根を見つける	新しいものに惹かれるも期待外れ	私は天探女を敵にする

04 | はじめに | 先行研究 | 研究方法 | 本文の分析 | 結論

	第六夜	第七夜	第八夜	第九夜	第十夜
登場人物	私 若い男 運慶	私 船の客	私 白い男	母 幼児	庄太郎 女
私の性格	自分の意志がない	心細い 不安性	好奇心	家族愛がある	至極善良
時代背景	鎌倉時代 明治？	不明	不明	戦争が起こりそうな時代	不明
場所	護国寺	大きな船の中	床屋	拝殿	広い原
時間の捉え方	短い時間散歩	短い時間（飛び込んでいる間）	短い時間（散髪中）	毎日中の短い時間	七日六晩
結論の描き方	運慶が今日まで生きている理由もほぼ解った	私は恐怖と後悔を持って海に落ちて行った	金魚売が動かないのを見る	母が悲しい夢を私に教えてくれた	庄太郎は助からずに、パナマ帽は健さんのものだろう
生と死の描き方	運慶が今（明治）まで生きている	飛び込んだ（自殺した）が、後悔した	死がなくて、みんなおかしく生きる	母は子供を連れて祈ったが、武士である父は音に殺された	庄太郎は一生懸命に豚と戦って、注意しない。
人としての生き方	無闇に模倣した	迷って飛び込みを選び後悔した	コントロールされるほど、好奇心を抑えられなくなる	結果はわかっていても、夫の死は信じていない	外見がいいものに惹かれて、悪い面も注意ない

05 結論

04 | はじめに | 先行研究 | 研究方法 | 本文の分析 | 結論

個人から

『夢十夜』に描かれる人物たちが、どれも漱石自身の影響を受けている。漱石自身が自らを明治時代の小さな人物になぞらえ、登場人物たちの人生に共感し、彼らの視点から社会問題について考えさせようとしているのである。

明治時代における日本社会へ

人々は彼らの物語を読んでいると、社会の変革を促したいと考える。言い換えれば、それだけイメージを描いているということは、共感してもらいたい、自発的に考えてもらいたいということであるともいえる。

漱石が期待するのは、漱石の作品を読んだ読者が、外から押し付けられる考え方ではなく、自分自身の心の内から外へ、花びらが咲くごとく、自分独自の生き方を探せることである。

04 | はじめに | 先行研究 | 研究方法 | 本文の分析 | 結論

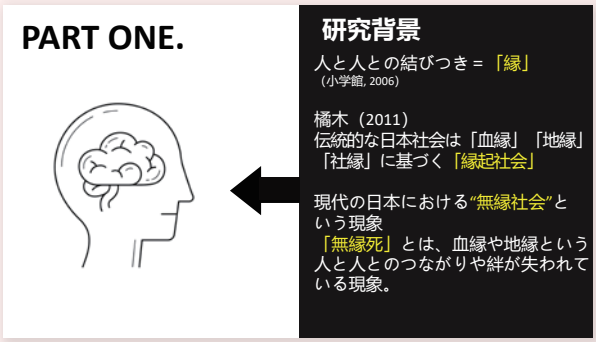
どちらかと言えば、前の四夜は、漱石自身の人生観で、後の六夜は、当時の社会に対する漱石の考えである。

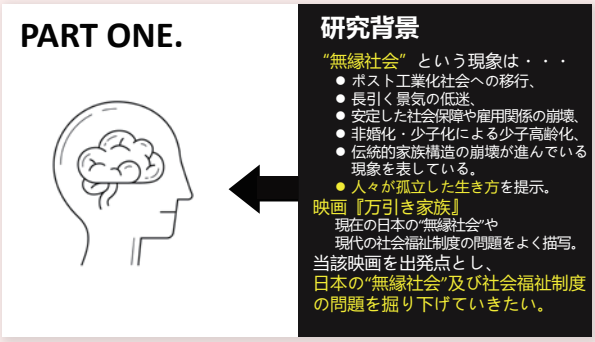
個人から社会まで、それぞれの登場人物のことを考えることで、個人と社会の相互作用の本質を理解しようとしていた。彼の考えには、社会の変化と近代化の中での人々の生活様式への懸念、伝統的な価値観と現代文明との間のぶつかり合いも含まれている。これは、個人と社会の関係についての漱石の深い考えの表れであり、時代の変化、社会の発展に対する漱石の個人的な応答でもあるかもしれない。

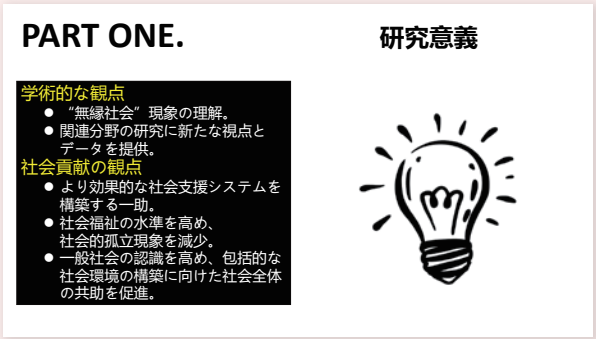
ご清聴ありがとうございました

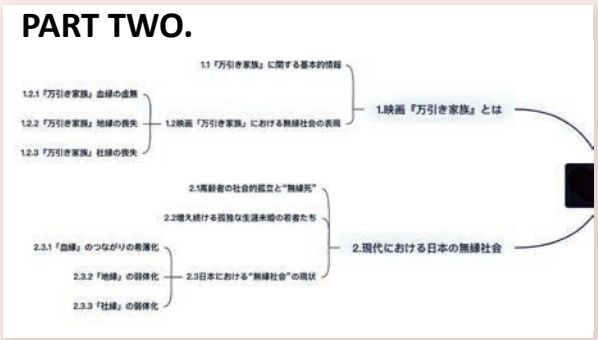
「日本における“無縁社会”と社会福祉制度の問題」
—映画『万引き家族』を手がかりに— PPT

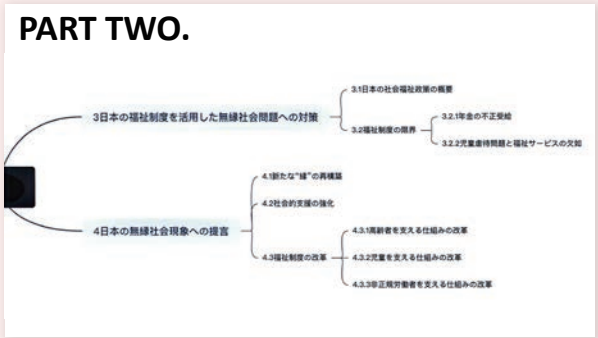
蘇州科技大学　王淞灝

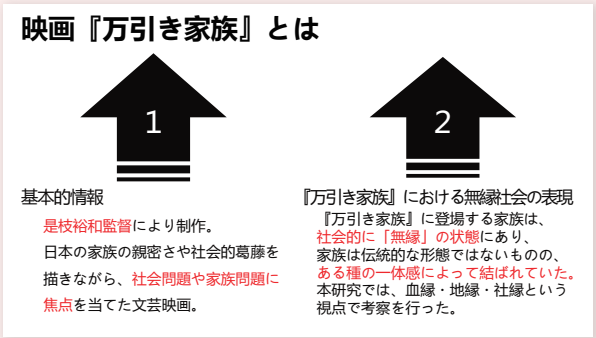












日本における高齢者の社会的孤立と「無縁死」
高齢化が進む日本社会では、
一人暮らしの高齢者の社会的孤立感が増加。
“無縁社会”問題の重要な要素。

日本における結婚観の変化
個人の自由や経済的負担への配慮から
結婚を避ける傾向の増加。
日本の高齢化と少子化の問題がさらに深刻化。

日本における血縁、地縁、社縁の希薄化
非婚化の増加や家族構造の変化により血縁関係が減少、一人暮らしの増加が地域社会への参加減少を招いている。
都市化と人口移動の影響で地縁が弱体化。
企業内の人間関係や雇用形態の多様化により社縁が弱まっている。

現代における日本の〝無縁社会〟

日本の福祉制度とその限界

■ 日本の社会福祉制度の現状
社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生を含む広範な体系。国民の安全と安定を支えている。

■ 日本の社会福祉制度の課題
高齢化と人口構造の変化、財政圧迫と資源配分。

■ 年金不正受給や児童虐待問題
社会的孤立や“無縁社会”現象と密接に関連。
福祉サービスや社会支援システムの不足が問題の深刻化へ。
将来の政策や改革において、福祉サービスの拡大と最適化に重点。
“無縁社会”問題への効果的な対応が求められている。

日本の無縁社会現象への提言

新たな「縁」の再構築
- 「地縁」を活用した地域コミュニティの再構築、SNSを介した新しい社会的つながりの創出、世代間交流の促進。
- 孤立感の軽減と社会的絆の強化に貢献

社会的支援の強化、福祉政策の改革
- 民生委員制度の拡充、非正規労働者の保護と支援拡大など、社会的支援体制の強化。

PART THREE.
終わりに

終わりに.

本研究の概要
日本の“無縁社会”と社会福祉制度の問題を、映画『万引き家族』を用い、それを入口に、社会の断絶と人々の孤立感を捉え、社会福祉制度の現状とその限界を検討。

本研究の特徴
文化作品を通じて社会問題を多角的に捉え、社会福祉制度の再考を促す新たな視点を提供。

終わりに.

本研究の限界
映画に基づく分析が全ての社会的現象を網羅するわけではなく、特に制度の細かな運用面や利用者の実感に基づく評価は不足。

今後の展望
地方と都市部の格差、経済的要因と社会的孤立の関係性、地域コミュニティの再活性化など、さらに深く掘り下げる必要があると考えられる。

謝辞

私が最も感謝したいのは、私の指導教員の岡村先生です。
先生はいつも励ましてくださいました。
そして、先生は何回も研究資料を提供して、
常に温かい笑顔で応援してくださり、
誠実に私の論文を指導していただきました。
本当にありがとうございました。

ご清聴ありがとう
ご ざ い ま す

「中国と日本の教育における相違点に関する一考察」
—自らの体験から学んだことをふまえて— PPT

蘇州科技大学　王雅蕭

1.論文の背景について

・中日両国の文化的背景と歴史的伝統はかなり異なる。この相違は両国の教育の観念の上での違いを招いた。第二次世界大戦後、日本の教育観は大きく変化したが、このような変化はアメリカの影響が大きいと考えられる。

1.論文の背景
Background Of The Thesis

日本：歴史的背景から考えて

第二次世界大戦後における米国の日本に対する教育改革の中で、『日本：軍事占領下の教育システム（1945）』は、戦後日本の教育改革に関する最初の文書である。この文書では、日本は極度に独裁主義的、民族主義的、軍国主義的色彩を帯びた国家であり、教育改革を行わなければならないと表現されていた。この文書ではさらに、日本人に対して「再定義」や「再教育」を行い、日本の意思形態及び心と思想を変え、平和と民主を愛する日本を作り上げることが必要であると指摘されている。

1.論文の背景
Background Of The Thesis

中国：歴史的背景から考えて

中国における歴史の中で、封建制度と科挙制度は、中国の教育観念に大きな影響を与えた。封建社会では、教育は主に官僚の人材を育成し、社会秩序を維持するために行われた。一方、官吏の選抜のための科挙制度は、教育の発展を促し、そこから詰め込み教育が生じた。さらに、儒教が道徳教育やヒューマニズムを重視したことも、中国の教育観念の中核をなす要素のひとつとなった。たとえば、勉強すれば「誰もが聖人になれる」という考え方は、中国において激しい教育競争を繰り広げる理由のひとつとなっていった。

2.研究の概要
Overview Of Research Ideas

日本：現在の学校教育観念について考えて

少子化が続き、競争は中国ほどは激しくない。日本における『学習指導要領』では、『生きる力』の育成を目指しており、競争には重きを置いていない。日本における『学習指導要領』では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を3本柱としている。また子どもの個性を大事にして、子どもが主体的かつ意欲的に学び、子ども一人ひとりが心身ともに健康に発達することを目指している。

2.研究の概要
Overview Of Research Ideas

中国：現在の学校教育観念について考えて

中国は人口の多いため競争も激しく、テスト中心の教育となっている。 テスト中心の教育は、生徒の受験能力を向上させることを主目的とし、テストの点数や暗記、問題解決に重点を置いた教育システムとなっている。さらに、教育される側のあらゆる面の質の向上を目指し、人間の思想的・道徳的資質の向上、多様な能力の育成、望ましい人格形成、身体的健康、精神的健康教育を重視する質の高い教育を行い、これらによって社会全体のためになるように目指している。

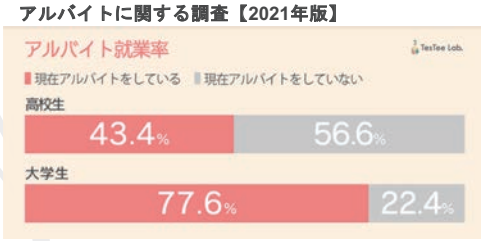
2.研究の概要
Overview Of Research Ideas

日本における家庭教育観念につて

1. 日本の家庭教育は、自主性と自立心を育むことに重点を置き、子どもが幼いうちから自立した問題解決能力を発揮するよう促している。
2. 日本の親は子どもの自己管理能力を伸ばすことを好み、子どもが自分で探求し、学ぶことを奨励する。
3. 日本の家庭は、子どもの自己同一性と自立心を育むことに重点をおき、個人的な価値観や目標を追求することを奨励する。

日本：家庭教育観念

アルバイトに関する調査【2021年版】



https://lab.testee.co/part-time-job2021/

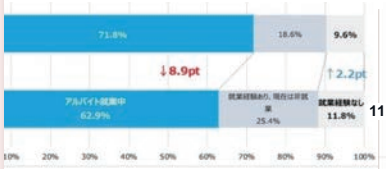
「中国の大学生は日本の大学生よりアルバイトをしている割合が少ない。」

中国：「学生は学業を第一に優先すべきだ。妨げになるならバイトはしない方がいい。」

日本：「大学生のうちに色々なアルバイトをしてみると社会経験になるし、就職活動でアピールにもなる。」

https://note.com/zenanfu2002312/n/nc57de71d8c60

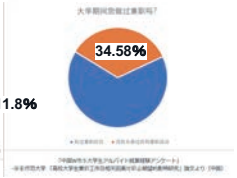
日本



ルバイト就業状況」マイナビ2021年　大学生のアルバイト実態調査より（日本）

活サイト・マイナビが行った実態調査では、前年より減少傾向
が、一度でもアルバイトの経験があると答えた学生は**全体の約**
ルバイト**未経験の学生は11.8%。**

中国



中国の大学生では、34.58%はアルバイト経験がない！→勉学優先！

湯紅琼（2016：中国・華東師範大学の修士論文。異なる5大学の学生に調査を行ったもの。）

2.研究思路概述
Overview Of Research Ideas

中国における家庭教育観念について

1. 中国の家庭教育では、学習と知識の蓄積を重視し、親は一般的に子どもの学業成績を大変気にかけている。そのため、子どもの自主性を育てることがおろそかになりやすく、子どもは親に過度に依存するように育つ。
2. 中国の親は厳格で、子どもの行動や学業成績に大きな期待を寄せる傾向がある。
3. 中国の家庭では、一般的に愛情や家族関係を重視し、親孝行や家族の名誉を重んじる。

3.結論として
Thesis Conclusion Overview

中国と日本は、長い歴史の中で豊かな文化的伝統と教育観念を蓄積してきた。時代の変化とともに、両国の教育観念には共通点もあるが、大きな相違点もある。これらの相違点を深く探求することは、両国の教育の特徴を理解するために役立つだけでなく、将来の教育改革に有益な示唆を与えてくれるだろう。

THANKS

ご清聴ありがとうございました！

発表者：王 雅露

2024/2/08

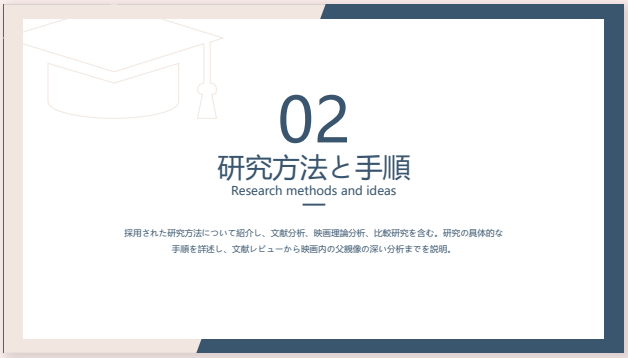
The End

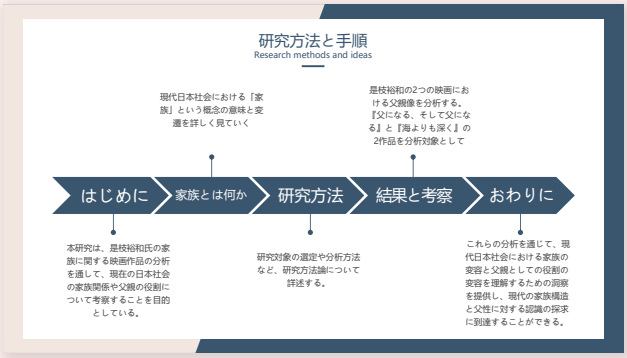
Engineering thesis defense

「現代の日本社会における父親像に関する一考察」
―是枝裕和氏の映画作品の分析を通して―

PPT

蘇州科技大学　李金芷





03
分析と発見
Research results display

「そして父になる」と「海よりもまだ深く」における父親像の分析結果をそれぞれ紹介。これらの作品が現代日本社会における父親の役割の変化をどのように示しているかを強調。

分析と発見
Research results display

「そして父になる」における父親像

メタファーの対比構造：都市生活と田舎生活の父親像の対比。

構造と人物：野々宮家と斉木家の価値観の違い、子育て方法の対比。

モチーフ：おもちゃと写真を通じた父子関係の深い結びつき。

「海よりもまだ深く」における父親像

メタファーの対比構造：落ちぶれた作家の父親と経済的に成功した新しい彼氏の対比。
構造と人物：伝統的家父長制の衰退、父親としての自己認識の変化。
モチーフ：掛け軸、硯、台風、タコの滑り台を通じた父子関係の再構築。

考察

両作品は、父親と家族の間の関係性、父親の役割に対する社会的期待と個人の価値観の間の葛藤、そして父親と子どもとの間の感情的結びつきの重要性を探る。現代日本における父親像の多様性と変容を示し、伝統的な家族観と新しい家族観の間のダイナミクスを浮き彫りにしている。

04
謝辞
thanks

研究の発見をまとめ、是枝裕和の作品が現代日本の家族と父親の役割の変遷を理解する上での貢献について討論。本研究が現代の家族構造と文化的特徴の理解を深める上での意義を強調。

謝辞
thanks

致

谢

この度の論文の完成にあたり、私を熱心にご指導いただきました岡野先生に心からの感謝を申し上げます。論文執筆の初めての挑戦において、多くの不備が見られましたが、岡野先生は常に丁寧に、細やかなご指導を賜りました。先生のご指導のもと、この論文を無事に仕上げることができたこと、そして、研究に対する深い洞察や学問的な姿勢を学ぶことができたこと、大変感謝しております。

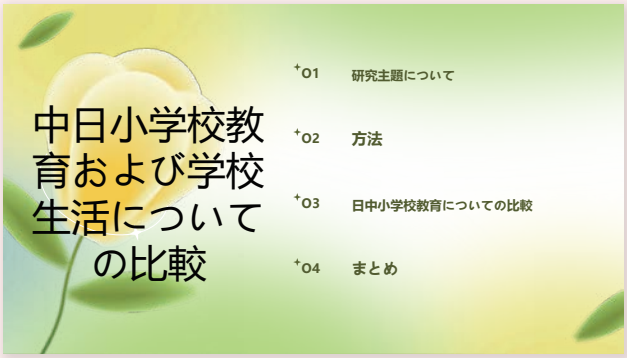
また、留学期間中における学業や生活面での支援をしてくださった社会・国際連携センターのスタッフの皆様にも、心から感謝の意を表します。皆様のご支援がなければ、異国の地での多くの挑戦に立ち向かうことができなかったでしょう。皆様のおかげで、留学生活を通じて学び、成長することができました。
岡野先生をはじめ、支えてくださった全ての皆様に深く感謝し、この論文を捧げます。先生方から学んだこと、経験したことは、人生においても大切な財産となります。改めて、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ありがとう
ございます

特別聴講生：李金芷
現代の日本社会における父親像に関する一考察

「中日小学校教育および学校生活についての比較」 PPT

黒龍江東方学院　姜鑫爍



中国

01
運営形式
中国の学校給食は運営形式の差異があり、 第三者食堂の監督に困難があり、安全性に関する問題がある。

02
養豊富でおいしい食事
児童に栄養豊富でおいしい食事を提供する。

03
調理済み食品
管理の課題と安全性も同時に懸念される。調理済み食品が徐々に学校に入り、保護者が調理済み食品の不健康を心配している。

授業に着目した中日の教育の比較

日本

1 **多岐にわたる授業**
日本の小学校授業は多岐にわたり、幅広い発展を重視。

2 **過程や思考を重視する。**
算数や生活科では結果よりも過程や思考 を重視。

3 **道徳科**
「道徳課」を単独で設置する。国文の役割とは異なる。

算数の授業

01 筆者は日本の小学校2年生の数学の授業を見学し、コン パスを使用した長さの測定が行われた。

02 授業では児童たちが自ら問題解決の考え方を説明し、 教師は45分間辛抱強く聞き、褒める姿勢を見せた。

03 筆者初めは時間の無駄と感じたが、後に過程も重要であることに気づき、日本の新しい学習指導要領が算数の知識だけでなく表現能力も重視していることに言及。

04 教師は児童に自己発見を促し、コンパスの正しい使い方を指導せず、これが児童の思考力や自己解決能力を養う一環と考えられる。

中国

1 **学生の積極性と教師の経験**
中国の数学教育において、教育者と児童のコミュニケーションの不足が課題。また、児童の積極的な学習をリードする技術の面では、新世代教師の経験不足が課題とされている。

2 **語文**
文学の知識を学びながら人生の道理を学ぶ。子どもの品格を養う。

3 **新しい課程：労働授業**
労働課程においても一人っ子が増える中国における抵抗感が指摘されている。児童は達成感があり楽しいと感じているが、保護者は児童が怪我をするのではないかと心配している。

おわりに

- 過程を重視する日本と、内容の習得を重視 する中国の違いを明らかにした。
- 日本の小学校教育は全面的な育成を強調し、 知識と生活を結びつけた学習環境を提供。
- 一方で、中国の小学生は、宿題や予習に忙 しいと仮定される。
- 両国の小学生のストレスを比較するには今後の研究が必要。

2023

ご清聴をありがとうございます

Thanks For Watching

「川上弘美における物の哀れ」 PPT

黒龍江東方学院　康窈嘉

川上弘美における物の哀れ

2391107
康窈嘉

- 物の哀れとは？
- 川上弘美について
- 物の哀れと川上弘美
- 川上弘美の作品の分析
- 結論

①平安時代の文学およびそれを生んだ貴族生活の中心をなす理念。本居宣長が「源氏物語」を通して指摘。「もの」すなわち対象客観と、「あはれ」すなわち感情主観の一致する所に生ずる調和的情趣の世界。優美・繊細・沈静・観照的の理念。

②人生の機微やはかなさなどに触れた時に感ずる、しみじみとした情趣。「―を解する」」

――広辞苑（第六版）より

その一

「物のあわれ」とは、「悲しみは美しい」という思想である。綺麗な物は儚いという考えがあり、日本人は繊細で敏感な感情を追い求めている。

その二

日本の「物のあわれ」は中国の唐代の影響を受けて、この影響を抜け出し、日本独特の風格のある思想を形成している。

人生の無常性や瞬間の美しさを強調し、物事に対して、しみじみとした感情を起こすことである。

物の哀れ ＞ 日本現代文学

川上弘美

1958年に東京都で生まれ

芥川文学賞、女流文学賞、紫式部文学賞、谷崎潤一郎賞、紫綬褒章など賞を受賞した。

代表作：『蛇を踏む』、『いとしい』、『センセイの鞄』、『三度目の恋』など

図は　https://www.niji.ac.jp/pages/niji/tokinotaba/kawakami.html　より

『センセイの鞄』
永遠に恋人を失った哀れ

- 図は　谷口ジローを描いた『センセイの鞄』漫画　より

ニシノユキヒコの恋と冒険

- 主人公西野幸彦と関わる10人の女性の視点から、西野の複雑な恋愛史が描かれている。
- 運命の無常、永遠の寂しい、そして愛を得ることができない哀れが現れ出ている。

物の哀れ
- 古典文学
- 川端康成
- 川上弘美の作品
- その他　日本現代文学

ご清聴
ありがとうございました

「中日の食文化の違いを分析する」
—中日の鍋料理の比較を元に— PPT

黒龍江東方学院　孫家苹

中日の食文化の違いを分析する
-中日の鍋料理の比較を元に-

特別聴講生　名前　孫家苹
番号　2391108

今日の流れ

Ⅰ 研究テーマを選んだ理由
Ⅱ　食文化について分析したこと
Ⅲ 食文化について分かったこと
Ⅳ 結論

Ⅰ 研究テーマを選んだ理由

①中日の食文化の違いに興味を持ったからです。

②鍋料理についての違いや共通点を知りたいからです。

③中日の食文化の革新力を高めたい。

写真の出所:Baidu

Ⅱ 食文化について分析したこと

① 中日の食文化の共通点

・食材

食材選びの幅が広く、主に米を中心にしている。

・食器

食事をするときの主な食器は箸ですが、箸の長さ、形が少し違います。

② 中日の食文化の違い

・テーブルマナー

日本人はうどんを食べると大きな声を出すが、それは周囲から嫌われたりすることはない。

・酒文化

日本でよく見かける形式にも「はしご酒」があります。最初の酒宴が終わった後、他の場所に引っ越して飲み続け、楽しくなるまで飲み続けるという意味です。

中国ではお酒を飲む場所が多く、固定されていないので、この形式は中国でも珍しい。

写真の出所:Baidu

Ⅲ 食文化について分かったこと

①中日の食文化の異なる理由

②中国と日本の食文化の特徴

③日本における中国の鍋料理の普及の状況

写真の出所:Baidu

Ⅳ 結論

今回の研究を通じて、中日両国の食文化について様々なことを理解した。

中国と日本の食文化は歴史によって繋がっており、発展してきた。今では世界でよく知られている食文化である。それぞれの食文化は自然や歴史によって独特な発展をしてきた。食文化の共通点によってそれぞれの国で普及された食文化が存在するが、火鍋料理の事例のように、食材などの違いにより受け入れや普及が難しい料理が存在する。この表な事例に対して、私は今後どうしたらいいのか考えていきたいと思います。

日本に一年間留学していますが、日本についてそれほど深く知ることが難しい。また、文化を把握することに限界がありました。今回の研究でまだまだ課題が残っています。これからは、より多くの他国の食文化を知り、それぞれの国の食文化の魅力を宣伝し、我が国の食文化の革新力を高めていきたい。

参考文献

1. 王霞「『百年の上から中国』による食文化の伝播研究」中国食品2022年
https://m.douban.com/book/subject/34864164/?dt_dapi=7.0.0.1,3,0,gen_feed,feed-item-9205206705526,,type1,
2. 王亚春「日本の食文化の変遷」科理知識2016年
3. 西沢治「大臣、中国の食文化の母国へ」週刊東洋エコノミスト2004年
https://www.toyokeizai.net/articles/-/6512?display=b#2004-07-24,,,

令和5年度　奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会（オンライン）

日 時　2024年３月18日（月）10:30〜12:00（中国現地時間9：30〜11:00）
奈良学園大学側会場：3号館3301教室

方 式　ZOOMによるオンライン方式
視聴用リンク：https://zoom.us/j/92806674308?pwd=aVJBMG1od2UwaHhqclJVRnlkNzQzZz09
ミーティングID: 928 0667 4308
パスコード: 862223

テ ー マ　互いの文化や習慣を理解し、違いを認め合おう！

プログラム

◎司会：山田 明広（奈良学園大学人間教育学部・准教授）

1. 両学よりあいさつ（10分）
   善野 八千子　（奈良学園大学社会・国際連携センター長、人間教育学部・特任教授）
   綦 亮　（蘇州科技大学外国語学部副学部長、外国語学部英語学科准教授）
2. 両学学生自己紹介（５分）
3. 発表（35分）

1.	発表者：浅倉 聖斗・平松 義士　（奈良学園大学） テーマ：「江戸前ずしはどのように誕生したのか」
2.	発表者：朱 浩天・呉 芸・蔡 思淼　（蘇州科技大学） テーマ：「徐州の伏羊祭について」
3.	発表者：白木 郁・寺口 翔馬　（奈良学園大学） テーマ：「浮世絵の世界旅行」
4.	発表者：梁 玉婷・羅 暁・田 子鵬　（蘇州科技大学） テーマ：「中国のお茶文化について」

4. 奈良学園大学特別聴講生、夏期日本語研修プログラムの紹介（３分）
5. 特別聴講生、夏期日本語研修プログラム研修生による日中カルチャーショックに関する発表（12分）
   ①発表者：李 金芷・高 晗〔2023年度特別聴講生〕（蘇州科技大学）
   テーマ：「日中のカルチャーショック――コンビニと飲食文化を例に」
   ②発表者：馬 源・王 依喆・周 欣〔2023年度夏期日本語研修プログラム研修生〕（蘇州科技大学）
   テーマ：「席譲りにおける中日文化の違い」
6. 質疑応答と討論〔5分〕
7. グループに分かれてのフリートーク〔10分〕
8. 閉会の挨拶・講評（10分）
   羅　時光　（蘇州科技大学外国語学部・准教授、日本語学科主任）
   山田　明広　（奈良学園大学人間教育学部・准教授）

第3回奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会（オンライン）を開催して

人間教育学部　准教授　山田　明広

本学と蘇州科技大学との第3回目となるオンライン交流会が、2024年3月18日に開催された。

本学は蘇州科技大学と2010年に連携協定を結んで以降、毎年、蘇州科技大学から多くの留学生を特別聴講生としてあるいは夏期日本語研修生として受け入れてきたものの、コロナ禍のため、2020年度以降、それが実施できなくなっていた。そこで、蘇州科技大学からの呼びかけにより、2021年度に第1回目のオンライン交流会が行われ、翌2022年度には第2回目も行われた。今年度は、過去2回とは状況が異なり、コロナ禍もすでに落ち着き、蘇州科技大学をはじめ本学の海外提携校から特別聴講生および夏期日本語研修生を迎えてはいたものの、引き続き本学と蘇州科技大学の学生同士の一対一の相互交流を行い、さらに密な関係を築いていこうではないかということで、今回の第3回目の開催となった。

過去2回の交流会は、「グローカルSDGs」や「SDGsについて語ろう！」をテーマとして掲げるなど、いずれも「SDGs」に関するテーマを設定していたが、今回の交流会では、「互いの文化や習慣を理解し、違いを認め合おう！」をテーマとするなど、これまではとは異なり「異文化理解」を前面に押し出したテーマを設定した。というのも、普段、授業やゼミなどで学生たちと関わる中で、学生たちは想像以上に中華圏の文化について知らず、またそもそもそれほど関心がないようにも感じていたが、今後、中華圏の提携校と交流を続けていくに当たっては、まずは中華圏がどのようなところであるのかを理解しておく必要があると考えたからである。

また、今年度に入り特別聴講生対象の授業を行った際に、日本に来てカルチャーショックを受けた経験ついて聞いてみたところ、「日本のテレビ番組には字幕がない」など、外国の異なる文化や事情の下で育った人でしか気づけないことが多数出されたので、是非ともこれらを本学の学生にも知ってもらいたいとも考えたからである。

交流会は、まず、本学社会・国際連携センター・善野センター長および蘇州科技大学外国語学部・綦亮副学部長による開会の挨拶により始まり、続いて、両学の参加学生が互いに自己紹介し合った後、「発表」が行われた。

発表では、各々自国の文化について、本学学生3名による2つのプレゼンテーションと蘇州科技大学の学生6名による2つのプレゼンテーションが行われた。発表内容は、本学側は寿司と浮世絵に関するもの、蘇州科技大学側は徐州の伏羊祭とお茶に関するもので、徐州の伏羊祭を除き、一見するとありきたりな題材のようにも思われたが、いずれも丹念に調べられており、相手国のみならず自国の参加者さえも「そうだったのか」と唸らせうるものであった。

発表後、本学の特別聴講生プログラムと夏期日本語研修プログラムについて紹介してから、今年度の蘇州科技大学からの特別聴講生5名のうちの2名と夏期日本語研修生10名のうちの3名により、日中カルチャーショックに関する発表2つが行われた。いずれも日中の比較を通して日本人では気づきにくい日本独自の文化的特徴を指摘するものとなっており、学生はもちろん我々教職員にとっても新たに得るところがかなりあったように思われた。

この後、「質疑・応答」が行われ、ここでは、蘇州科技大学側から1つ質問が出され、本学側がそれに対して答えたぐらいで、今一つ盛り上がりに欠けるものであった。

しかし、その後にZOOMのブレイクアウトルーム機能を用いて「グループに分かれてフリートーク」という初の試みを実施したところ、予想以上に大いに盛り上がり、事前に決めておいたファシリテーターも必要ではないぐらい活発な交流がなされた。この新たな試みについては、まだまだ改善の余地はあるものの、成功と言えるものであったであろう。

最後に、前回同様、蘇州科技大学外国語学部准教授で今回の交流会の蘇州科技大学側の取りまとめをして下さった羅時光先生と本学側の取りまとめ役であった私が講評を述べることで、本交流会は幕を閉じた。

最終的に双方のオーディエンスも含めて約55名の学生と教職員が参加するなど、本学が春休み中でしかも卒業式が終わって間もないといった状況であったにも関わらず、活気に満ち溢れた交流会となった。

今回の交流会では、本学の発表者について言うと、昨年度も参加した学生が主体ではあったものの、それ以外では、セブ島語学研修に参加した学生やピアサポーター、保健医療学部の学生、そして、本学と蘇州科技大学の両方に関わる特別聴講生と夏期日本語研修生といった新たな参加者を多く迎えることができた。これを弾みとして、本学の学生にはより一層国際交流に目を向け、積極的に異なる文化や価値観に触れる機会を持つことで、少しでも国際的視野やグローバル感覚が醸成されることを願わんばかりである。

江戸前ずしはどのように誕生したのか PPT

人間教育学部　2211301　浅倉 聖斗、2211314　平松 義士

江戸前ずしはどのように誕生したのか

奈良学園大学人間教育学部
浅倉　聖斗、平松　義士

・日本の食文化

皆さんは「日本の食文化」と聞くと何を思い浮べますか？

寿司、ラーメン、天ぷら

これらを思い浮かべる人が多いのではないでしょうか？

今回はこれらポピュラーな日本の食文化の中でも「寿司」を取り上げ、その起源や展開について発表していきます。

外食の起源

寿司と言えば……高級店で外食
現代……ファミレスや高級料亭などさまざまな外食産業が盛ん。

⬇

江戸時代（１６５７年）に起きた明暦の大火が外食発生のきっかけ。

- 大火からの復興のため、大工や左官などの男性の単身労働者が多数集まる。
- 家財を失った被災者も多数存在。

⬇

そうした人々に食事を提供するため、「屋台」や「飯屋」ができるようになった。

江戸の屋台

うどん、そば、団子、天ぷら、するめいか、やきいも、ゆで卵、水菓子、寿司など

寿司の起源と変遷(1)

①なれずし：
時期：2世紀頃～（東南アジア）
　　8世紀頃～（日本）

魚を塩と米飯で熟成させ乳酸発酵させた食品。
2世紀ごろから東南アジア一帯でこの製法が用いられ、８世紀ごろには日本に伝わったとされる。

寿司の起源と変遷(2)

②早ずし：
時期：江戸時代中期・1700年代前半頃～

飯にお酢と塩で味付けしたもの。
酢飯で作る現在のおすしの原型。

⬇

以降、江戸時代中期には「押しずし」「巻きずし」「棒ずし」など様々なおすしが作られるようになる。

※酢飯を用いたすし全般を「なれずし」に対して「早ずし」という場合もある。

寿司の起源と変遷(3)

③こけらずし：
時期：江戸時代中期頃～

箱形の枠にすし飯を詰め、その上に薄く切った魚、貝肉、卵焼き、椎茸などを「こけらぶき」に並べて押し固めたもの。
「押しずし」の原型ともバリエーションの一つとも言われる。

こけらぶき

- こけらぶきは、屋根葺手法の一つで、木の薄板を幾重にも重ねて施工する工法である。日本に古来伝わる伝統的手法で、多くの文化財の屋根で見ることができる。

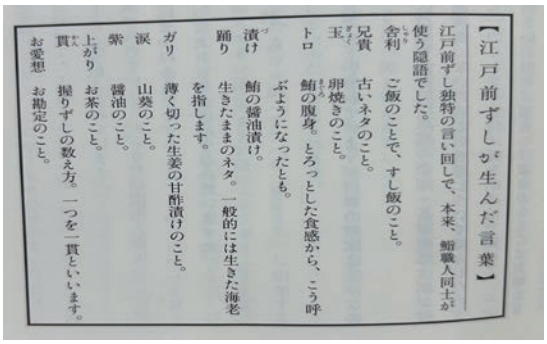
寿司の起源と変遷 (4)

④握りずし（江戸前ずし）
時期：江戸時代後期・文政5、6年
（1822、23年）頃～

江戸両国の華屋与衛兵がすし飯に新鮮な魚貝類や卵焼きなどのネタを握って売ったのが有名。
もともと江戸の前（＝東京湾）で獲れた魚をネタにした寿司であったため「江戸前ずし」とも言う。
当初は屋台でおやつとして提供されるのが主流。

華屋与衛兵（はなやよへい）

- 霊岸島（東京都中央区にかつて存在した地名）生まれ。幼名は弥助（やすけ）。伝染病で両親を亡くしてしまった。
- 1824年に「華屋」を開業。ワサビを使い、現在の寿司に非常に近いものを出したことから、一般には握り寿司の考案者とされる。
- 1858年に死去。60歳没



【江戸前ずしが生んだ言葉】

江戸前ずし独特の言い回しで、本来、鮨職人同士が使う隠語でした。

舎利　ご飯のことで、すし飯のこと。
兄貴　古いネタのこと。
玉　卵焼きのこと。
トロ　鮪の腹身。とろっとした食感から、こう呼ぶようになったとも。
漬け　鮪の醤油漬け。
踊り　生きたままのネタ。一般的には生きた海老を指します。
ガリ　薄く切った生姜の甘酢漬けのこと。
涙　山葵のこと。
紫　醤油のこと。
上がり　お茶のこと。
貫　握りずしの数え方。一つを一貫といいます。
お愛想　お勘定のこと。

クイズ１

- 寿司には生姜が添えられています。

ただし、関西と関東で違っていました。

酢漬と紅生姜
どちらが関西でどちらが関東でしょう。

酢漬

紅生姜

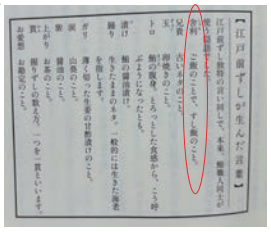
正解：
酢漬 ⇒ 関東
紅生姜 ⇒ 関西

クイズ２

「舎利（しゃり）」は、今では握りずしの「すし飯」を意味する言葉となっていますが、本来は何を意味する言葉でしょうか。

①砂利
②氷を細かく砕いたもの、かき氷
③釈迦（仏）の骨や歯

正解：
③釈迦（仏）の骨や歯
もともとはサンスクリット語（梵語）の「śarīra（身骨）」から来ている。

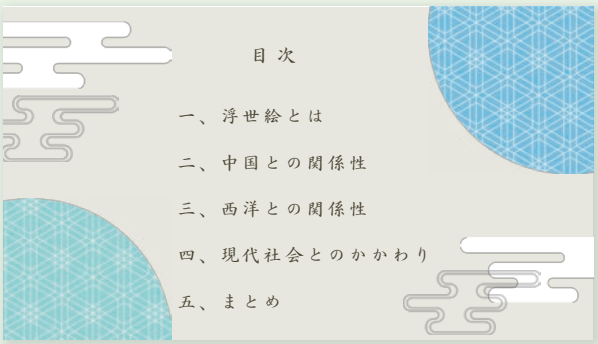


参考文献

- 鳥居本幸代（2015年）『和食に恋して: 和食文化考』、春秋社
- 髙橋 千劔破（2011年）『江戸の食さい　春夏秋冬』、河出書房新社
- 「すしの歴史」、ミツカングループウェブサイト、https://www.mizkan.co.jp/sushilab/manabu/（2024年３月14日閲覧）
- 「こけら寿司 和歌山県」、農林水産省、https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/menu/kokera_sushi_wakayama.html（2024年３月14日閲覧）
- 「こけら葺き」、栗山木工有限会社、https://www.kokeraya.com/kokera（2024年３月14日閲覧）
- 瀬戸口純也「江戸前寿司とは 関西寿司との違い」、東京すしアカデミー、https://www.sushiacademy.co.jp/archives/c351（2024年３月14日閲覧）
- 小学館国語辞典編集部（2006年）「舎利」『〔精選版〕日本国語大辞典』、小学館

浮世絵の世界旅行 PPT

人間教育学部　2211304　白木　郁、2211307　寺口 翔馬



浮世絵とは

江戸時代に発達した風俗画

二つの形式に分かれる。
- 「肉筆画」絵師が手で書いたもの
- 「木版画」絵を木に彫って刷ったもの ※1

東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》
寛政6年（1794）大判錦絵
東京国立博物館蔵
https://www.tnm.jp/modules/r_collection/index.php/?controller=vw&id=A38848,471

菱川師宣《見返り美人図》
元禄（1688～1704）前期 絹本着色
一幅 63.0×31.2cm
東京国立博物館蔵
https://www.tnm.jp/modules/r_collection/index.php/?controller=vw&id=A

中国との関係性

「萬事吉兆圖」※2
https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2020/02/story/ukiyoe200211/

- 浮世絵は中国版画の中でも特に「蘇州版画」の影響を受けている。
- 「蘇州版画」は「年画」として作成されていた。※3,4

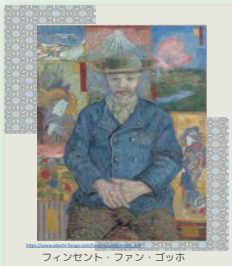
菊川英山　作

喜多川歌麿　作

- 日本へは「年画」として伝わり浮世絵に影響を与えた。※3,4

「和合神之圖」※2
https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2020/02/story/ukiyoe200211/

西洋との関係性



フィンセント・ファン・ゴッホ
《タンギー爺さん》
1887年　油彩、
カンヴァスロダン美術館蔵

- 浮世絵は西洋にも大きな影響を与えた。
- 現在残っている浮世絵の4分の3以上は海外にある。
- 浮世絵は陶器の緩衝材や包み紙に使用されて西洋に渡った
- ゴッホだけでなく、モネも浮世絵を愛した。※5,6,7

蘇州版画と西洋の関係性

- 蘇州は17～18世紀当時、国際都市であった。
- 「蘇州版画」は西洋の銅版画や西洋画の陰影・遠近表現など、西洋美術の影響を受けている。※8

現代社会とのかかわり

新時代の新しい動き

https://www.meihaku.jp/ukiyoe/category/news/

西洋技術の流入により一度は衰退した浮世絵は日本の大正時代に起こった新版画運動により芸術作品として再興。

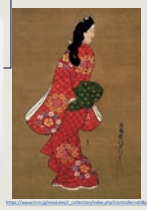
しかし、芸術作品と捉えられたために庶民から遠い存在になってしまった。※9

https://www.adachi-hanga-premium.com/blogs/archives/dragonfly-ukiyoe-revaissance

まとめ

- 浮世絵は中国との深い関わりがあり、西洋にも影響を与えた。
  西洋→中国→日本→西洋
- 浮世絵は世界だけでなく、時代も旅をした。

https://tokebuh.com/article/28338/#google_vignette



https://www.tnm.jp/modules/r_collection/index.php/?controller=vw&id=A48

引用・参考文献一覧

※1 https://www.meihaku.jp/ukiyoe/ukiyoe-basic/ukiyoe/
名古屋刀剣博物館　浮世絵とは　2024/03/07　14:38　最終アクセス

※2 https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2020/02/story/ukiyoe200211/
NHK　サイカル　そっくり！浮世絵と中国版画 その意外な関係とは　2024/03/07 15:21　最終アクセス

※3 森山泰二（2020年）「蘇州版画」『やまとの名品』第160回、天理図書館

※4 趙明珠・山口泰弘（2013年）「中国清代版画と浮世絵の技法に関する比較研究」『三重大学教育学部研究紀要（自然・人文・社会・教育）』64、p88

※5 https://shikinobi.com/ukiyoe
四季の美　浮世絵とは？浮世絵の歴史とその全て。2024/03/09 9:56　最終アクセス

※6 https://www.adachi-hanga.com/hokusai/page/enjoy_100
北斎今昔　ゴッホの浮世絵愛があふれた、とっておきの作品５選　2024/03/09 13:44　最終アクセス

※7 https://s.mxtv.jp/tokyomxplus/mx/article/202108281150/detail/
TOKYO MX　浮世絵の衝撃はモネやセザンヌへ…世界に影響を与えた“ジャポニズム”2024/03/10 21:32　最終アクセス

※8 「姑蘇万年橋図」、神戸市立博物館、https://www.kobecitymuseum.jp/collection/detail?heritage=365071（2023.03.12閲覧）

※9 https://www.touken-world-ukiyoe.jp/learn/history/
刀剣ワールド浮世絵　浮世絵の歴史　2024/03/10　22:12　最終アクセス

セブ島語学研修 振り返り

人間教育学部　2311408　小林　姫弓

学校編

この留学の中で一番衝撃を受けたのは英語で英語を学ぶことがこんなにも楽しいのだということ。授業内で先生の指示・文法の説明・単語の意味言い換えでの場面で成功体験を積み重ねるごとに楽しく、嬉しかった。だから授業を受けることが楽しくなった。それに加えて、先生方は様々なことを誉めてくれる。例え間違った表現をしても「いい意見だね！ありがとう」と声をかけた後、「今の表現はこう言うんだよ」と自分の話した文章を訂正してくれた。だから他の先生との会話でも気をつけることができた。個人レッスンでは授業で学んだ内容を自分に置き換えて会話をしたり、conversationでは最初は質問を5つ考えることに必死だったのが、後半は型にはめた質問をしながらも先生の返答によって質問を変えてみたりリアクションをして楽しく会話をすることができたので、自分自身でも成長を感じることができた。発音の指導では先生が自分のきちんと発音ができるようになるまで、単語を変えてみたり舌の動かし方の本を見せてくれたり、発音サウンドを可視化してくれたりなどと工夫し、熱心に教えてくださった。

また、教師として学ぶこともたくさんあった。先生は受講生の前で必ず明るく、授業の始まりからクラスの雰囲気を高めてくれる。自分の伝えたいことがうまく文章にならず単語のみになっても先生が文章を作って確認してくれるので自分の言いたいこともためらわずに言うことができた。そういった面で受講生の伝えたいことを汲み取る技術がすごいなと感動した。授業中には一つのことが終わるたびに質問がないか、確認してくれるのでどんな些細なことであっても質問しやすい。自分が不安になっていたり上手くいかなくて落ち込んだりしていても「何の問題もない！十分だよ！」「あなたならできる！私はそう信じるわ」と声をかけてくれたことでとても安心することができた。留学前は不安で行きたくない、帰りたいと思っていた自分が毎日学校に行くのが楽しくて英語をこんなに積極的に学んでいた自分にすごく驚いている。

学校外編

街中では特に交通に関する衝撃が多かった。スラム街でのボランティアでは生活の質の違いや子供達の人懐っこさに驚いた。フィリピン人には日本と違った温かさのある人たちが多かった。週末にはECCでできた友人たちと共にツアーに参加してたくさんの景色を見ることが出来たし、多くの経験を得られた。また、一週間ごとに生徒が入れ替わるので、短期間で多くの友人ができたことは自身の社交性がすごく伸びた4週間でもあったと感じている。

この4週間、これほど充実した期間は初めてで、今後このメンバーで一生味わうことのできない特別な時間だったと感じている。また、海外に対してすごく興味を持つこともできた。だから次は他の国で4週間を過ごしてみたい。たくさんの経験をすることができて幸せでした。多くの友人や先生方に出会えて本当に良かったです。

ありがとうございました。

セブ島語学研修 振り返り

人間教育学部　2111316　渡辺 明日香

到着時に気づいたこと

乾季とはいえ、少し蒸し暑かった。ただ湿気が少なく気温のわりに過ごしやすく感じた。印象にあるのは空港に入った時に感じた匂いだ。

説明をするのは難しいが日本とは違う匂いがした。バスに乗ってから感じたのは景色の変化が激しいということだ。日本と似たようなビルが並んでいると思えば、少し走ったら日本にはない建物が並んでおり、貧富の差の大きさを感じた。

〈セブ市 街中〉

〈パンダノン島の海〉

〈卒業セレモニー〉

滞在している中で気づいたこと

まず生活と宗教が日本より強く結びついていると感じた。市内観光の時にミサや買い物に行った際に祈りの時間と被り、目の前で祈りの時間を見ることができた。またボランティアにいた際にも食事の前にダンスをしていて日本にはない習慣なので新鮮だった。次に日本との交通安全の面でも差を感じた。セブでは交通渋滞がほぼ常時発生し、横断歩道がほとんどなく道路を突っ切っていかなければならなかった。最初は少し怖かったが少しずつ慣れていった。また学校やツアーに行く際にバスを利用していたが、交通渋滞がない場所ではスピードが速く日本との違いを感じた。

授業等を通して気づいたこと

久しぶりに50分授業を受けて感じたのは、このくらいの時間がちょうどいいということだ。しっかり集中力を保てるのは自分にとっては50分勉強、10分休憩というサイクルということに気づいた。また先生方と話していて気づいたのはどの先生も圧倒的に褒めてくれる回数が多いということだ。もちろん発音等で指摘を受けることもあったが、それでも褒めてくれる回数の方が多かった。どの先生も常に笑顔でしっかり目を見て話してくれてもいた。少人数制ということももちろんあるとは思うが、受講生一人一人に真摯に向き合ってくれているということを感じた。またとてもフレンドリーで自分からも話しかけやすかった。

英語をずっと使わなければいけない環境にいたためリスニングも成長していて、帰りではCAさんの話しの内容が少し汲み取れたり話しかける際も身構えなくなっていたりしていた。

〈ボランティア活動〉

編集後記

2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行し、外出自粛要請が無くなりました。それに伴い人の往来が戻り、世の中が新型コロナウイルス感染症の発症前の状況に近づいてきました。キャンパス内でもソーシャルディスタンスや個食の制限が無くなり、友人たちと共に食事をする学生の姿が見られるようになりました。

社会・国際連携センター事業も再開となり、活発な国際交流が行われました。約4週間にわたり開催した夏期日本語研修プログラムでは4つの大学から18名が来日し、日本の文化に触れながら日本語を学びました。また奈良学園大学の学生もカンボジアやセブ島へ研修に出向き、参加した学生は多くの刺激と有意義な時間を得ることができました。学生は、実際に現地を訪れることで、直接文化や風土に触れ、その国をより理解できるということを学んだのではないかと思います。そして、この経験を活かし、学生が今後大きく羽ばたいてくれることを期待したいと思います。

本誌は、今年度、学生が国際交流の際に使用したスライドや、学生の学び・感想をまとめたものとなります。学生の国際交流にご支援・ご協力を頂きました皆様、本誌発刊にご協力いただきました皆様に深謝申し上げます。

社会・国際連携センターでは国際交流と併せて地域貢献に関する事業も実施しています。公開講座や近隣地域の行事への協力等で地域振興に努めるとともに、教員の教育研究活動を通した社会貢献の情報等をお知らせする「奈良学園大学ニューズレター」の発行をしています。今後とも社会・国際連携センターの事業についてのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会・国際連携センター運営委員
保健医療学部　講師　笹野　弘美

社会・国際連携センター発刊
〒631-8524　奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1
Tel. 0742-93-5405
http://www.naragakuen-u.jp

人を支える人になる

奈良学園大学

NARAGAKUEN UNIVERSITY